

# 「動物園・水族館における生涯学習活動を充実させるための調査研究」報告書

社団法人 日本動物園水族館協会

## ▼目次

### 調査概要

#### アンケート結果の分析と考察

1. プログラムの分類とその傾向
2. プログラムの目的について

#### ヒアリング調査

#### 今後の課題とまとめ

### 資料編

1. カテゴリーサーチ検索結果
2. クイックサーチ検索結果
3. プログラム概要一覧
4. ヒアリング調査結果サンプル
5. アンケート結果サンプル
6. 調査研究委員会議事録

# 動物園・水族館における生涯学習活動を 充実させるための調査研究

## —教育プログラム共有化のための実態調査—

動物園・水族館は、生きた動物を実際に感じ、触れ合うことのできる場であり、この特性を生かした教育活動や催しが数多く実施されている。しかし多くの活動は、各施設が少数の担当者のもとに、もっぱら自己の経験に基づいた独自のやり方で行っているのが実情である。

これらの活動に使用されているプログラムが全国的に共有化されることで活動の展開が容易になるとともに、さらに高度で効果的なソフトの開発の基礎とすることができると思料する。本報告は、日本動物園水族館協会加盟園館を対象に行ったアンケート調査および14園館で行った聞き取り調査をもとに実態の把握と動向の分析を行ったものである。また、今後の指針を探るとともに各教育プログラムの共有化実現を目指したマニュアル作りを試みたものである。

## 調査概要

### 調査方法

予備調査として、日本動物園水族館協会加盟園館を対象にアンケート調査を実施し、各園館で行っているプログラムのうち推奨できるものを3つ選択してもらい、その内容や実施方法などを回答してもらった。アンケート結果をもとに、実施されている教育プログラムの現状と動向を分析するとともに、共有可能と思われるものを16プログラム抽出して実地調査を行った。実地調査結果については準備および実施の詳細を記録し、モデルプログラムとしてのマニュアル化を試みた。

アンケートの作成および分析には、『動物園における教育活動の調査』（広島市安佐動物公園・動水誌30 3）、『水族館における教育活動の調査』（海の中道海洋生態科学館・動水誌35 2）、『教育普及活動アンケート調査』（熊本市動植物園）を参考とした。

### 調査期間

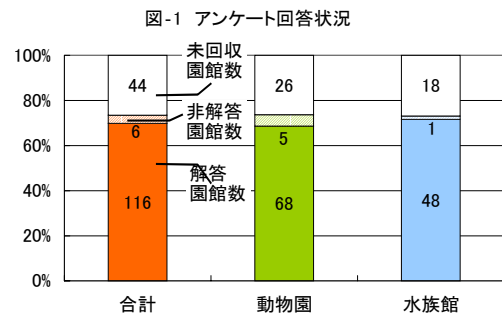
アンケート調査 : 2000年11月5日～2000年12月31日  
ヒアリング調査 : 2000年11月5日～2001年2月23日

表-1 ヒアリング調査実施日

横浜市立よこはま動物園	2000年11月5日	姫路市立水族館	2001年1月25日
江ノ島水族館	2000年11月11日	大阪・海遊館	2001年1月26日
埼玉県こども動物自然公園	2000年11月12日	大阪市天王寺動物園	2001年1月27日
広島市安佐動物公園	2000年12月12日	千歳サケのふるさと館	2001年2月3日
海の中道海洋生態科学館	2000年12月13日	旭川市旭山動物園	2001年2月4日
東京都葛西臨海水族園	2000年12月23日	富山市ファミリーパーク	2001年2月21日
滋賀県立琵琶湖博物館	2001年1月17日	川崎市夢見ヶ崎動物公園	2001年2月23日

## アンケート回収状況

アンケートを送付したのは動物園 99 園、水族館 67 館の計 166 園館。有効な回答が戻ってきたのが 68 園、48 館の合計 116 園館。園館を合わせた回収率は 69.87%であった。この他に白紙回答が 6 件あった(図 1)。教育プログラムを実施していないという理由の他、プログラム共有化に反対という理由も推測できた。有効な回答のあった園館の中にも、プログラムは独自のものであり共有化には賛成できないという意見が少数ながらあった。



## アンケート結果の分析と考察

### 1. プログラムの分類とその傾向

アンケートの回答内容をもとに、プログラムを表 2 のような 9 つのカテゴリーに分類した。(分類結果は資料編 1. 参照)

各園が力を入れて実施し他にアピールできるものとして 3 つのプログラムを選んでいるので、「どの園館でもやっているだろう」と思えるものが排除されている可能性は高いが、いずれにせよバリエーションは豊富である。ヒアリング調査では、ひとつのプログラムを発展させる過程でさまざまなバリエーションが生まれていることがうかがえた。この傾向は専任の担当者がある園館で高い。

### 従来のプログラムの幅の広がり

タッチングを行うふれあいや飼育体験を基礎にしたサマースクール、解説を行う園内ガイド、レクチャールームなどを利用した講座・教室は従来から広く行われ定番化しているといつて過言ではないが、水族館では館内に宿泊できる形式を取り入れて夜の水族館を見

表-2 プログラム分類カテゴリー

	カテゴリー	各カテゴリーを メインとする プログラムの 件数と割合	プログラムパターン
1.	飼育体験	69件 22%	サマースクール、一日飼育係り、貸し出し飼育など
2.	ガイド	49件 16%	スポットガイド、ガイドツアー、裏側ガイド、セルフガイドなど
3.	講座・教室	29件 9%	動物レクチャー、工作教室など
4.	観察会・実験	60件 19%	動物観察会、野外観察会、実験など
5.	学校・授業対応	47件 15%	出張授業、遠隔授業、校外授業、職場体験、実習受け入れ、移動動物園など
6.	教員対応	3件 1%	
7.	レクリエーション併用型	20件 6%	クイズ、ゲーム、レース、写生、写真撮影など
8.	ふれあい	32件 10%	タッチ、えさやり、乗馬、搾乳、毛刈りなど
9.	その他	7件 2%	地域支援、ビデオ貸し出しなど

せているところが増えている。また、カメやコイの卵、クラゲなどを参加者に持ち帰ってもらい、自宅で飼育体験をさせる水族館もある。ガイドについては、オリエンテーリングやビンゴゲームを取り入れたクイズ形式のセルフガイドを実施している園館もあり、従来のプログラムであっても形態の幅は大きく広がっている。スポットガイドなどでは、飼育担当者全員が担当動物について行うという園館が増えていて、「飼育担当者が前面に出て解説を行い、展示・普及活動を充実させる」という発想が浸透しつつあるように思える。

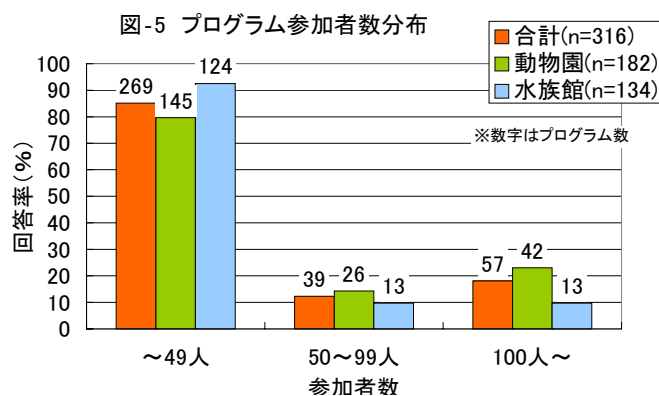
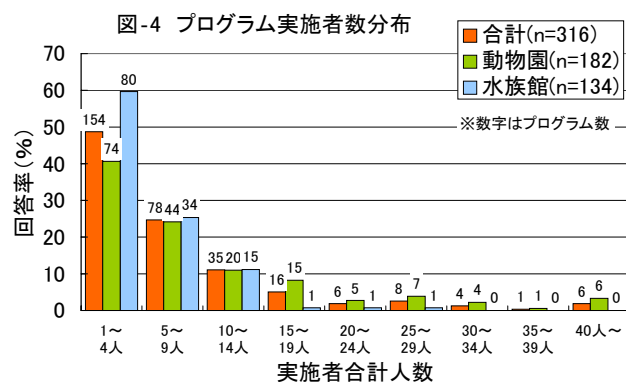
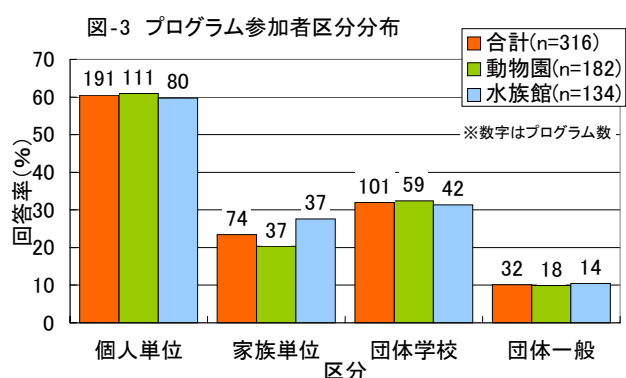
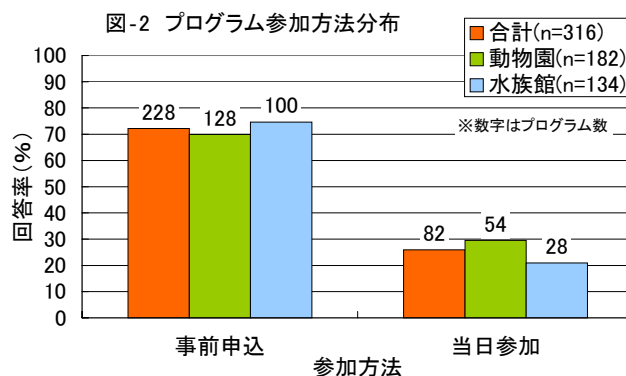
### 新しい展開と多様さ

新しいタイプとしては、飼育動物以外の野生動物を対象にした観察会が増えている。例えば、園内に生息する昆虫やネズミ、ホタル、アメンボなどの観察会、さらに園館外のフィールドでのフクロウ、水生昆虫、プランクトンの観察会、クサフグの産卵観察会などで、各園館の立地環境をうまく利用している。動物個々についての理解から、自然の一部として動物を考える総合的理解へと、動物園・水族館の役割としての視野が広がってきた結果と思える。次に、学校との連携を考えたものも目新しい。遠足対応の解説やふれあいの枠を超え、実際に動物を持って学校を訪れる出張授業や移動動物園・移動水族館、テレビ電話を使って学校の授業をする遠隔授業が見られる。小学校の学習指導要領に沿ったカリキュラムとして組み込まれ、使う漢字やその書き順など黒板に書く際の技術も考慮して行っている園もある。総合学習に対応したものや小中学校の職場体験の受け入れ、教員や保育士を対象にしたプログラムも増えている。

さらに新しい試みとして、地域支援および地域共同型のプログラムが生まれている。草食動物の糞を堆肥として利用し地域小学校と共同で飼料作物を栽培するというものや、市内の小中学校教員を中心として組織された「メダカの学校をつくる会」活動を支援するというものなどがあり、新しい視点と切り口として注目できる。また、ユニークなプログラムとしては、ところてん作り、犬のアジリティ（人と犬がともに楽しむスポーツ競技会）などもある。従来の動物園・水族館のイメージにとらわれない展開と多様さが生まれている。

### プログラム参加人数とプログラム実施者数

プログラムの参加方法を事前申し込みと当日参加に分けると、約72%が事前申し込みである（図2）。一方で参加者区分を個人単位、家族単位、学校団体、一般団体に分類すると、個人単位と家族単位の合計が全体の約84%（図3）。多くのプログラムが個人や家族を対象に行われている割に事前申し込みになっている。全プログラムの約50%は4人以下の実施者で行われており（図4）、事前申し込みにする理由の多くが、人数制限であることがうかがえる。100人以上が参加しているプログラムは全体の約15パーセントで、大衆参加が可能なものが少ないことがうかがえる。100人以上が参加するプログラムを動物園・水族館に分けて集計した結果は、動物園で約23パ



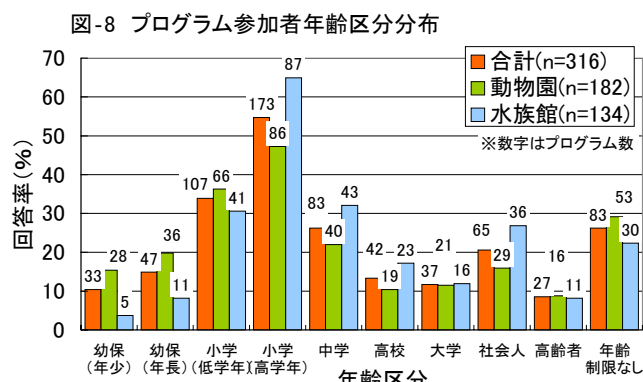
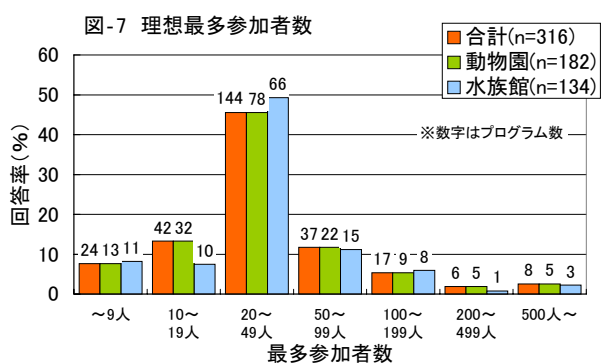
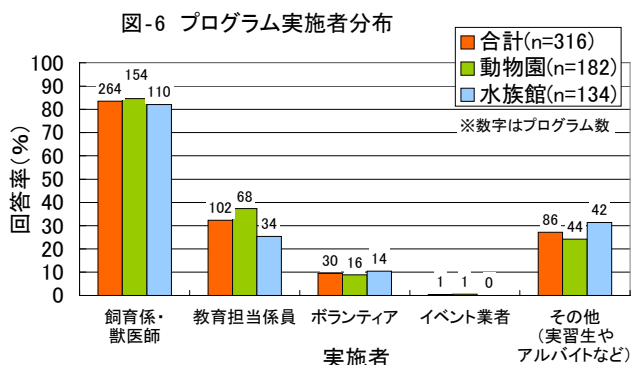
ーセント、水族館で約 10%で動物園の方が高いが、動物園は屋外を利用できることが理由であると考えられる(図 5)。

プログラム実施者の内訳を集計した「図 6 プログラム実施者分布」では、約 84%のプログラムに飼育係・獣医師がかかわっているのに対し、教育担当者がかかわっているプログラムは約 32%しかなかった。飼育係・獣医師が日常業務のかたわらで行っている率が高いということであり、人手不足はいなめない。この傾向は、動物園と水族館とを別々に集計しても類似した結果となっている。

アンケート項目の「このプログラムを実施しやすい人数」から出した「図 7 理想最多参加者数」では、約 66%が 50 人未満となっているが、「担当者の数とスペースが確保できればそれ以上も可」と答えた園館は多い。実施中に人手を必要とするものほど密度の高いプログラムと言えと思うが、それをやろうとすると参加者が制限される結果になり、参加希望者がいつでも参加できる体制とはいいいがたいのが現状である。

### 児童対応のプログラムについて

参加者年齢区分における各区分の割合は、もっとも高いのが小学校高学年で約 55%、次いで小学校低学年の約 34%であった。幼稚園・保育園の割合は約 25%で、幼稚園・保育園が必ずといっていいほど動物園や水族館に遠足に行くことを考えると、未就学児童の参加率は低いと思える(図 8)。動物園と水族館を分けて集計してみると、小学校低学年以下の年齢の参加が動物園の方に高く、小学校高学年以上の年齢の参加が水族館で高い傾向にあるが、これは動物園へ行く機会の多い年齢層および水族館に行く機会の多い年齢層がそのまま反映された結果であろうことを考えると、有意差としては認められない。



年齢区分が限定されたプログラムを拾ってみると、幼稚園・保育園のみを対象にしたプログラムは動物園にわずか2件があるのみで（図9）未就学児童への対応がうまくなされているとは言いがたい。未就学児童は小学生低学年対象のプログラムに参加しているというのが現状であろう。

いわゆる“子ども対象”のプログラムの多くが、小学校高学年を対象に考案されていることがうかがえるが、低年齢層に対する言葉使いや内容の選択が難しいことが理由としてあげられる。とくに未就学児童については、幼児教育に関する知識や技術が必要であり、工夫が難しいことが推測できる。教育担当者が全くかかわっていないプログラムが約68%であることも、その原因のひとつであろう（図

10）。ちなみに、この傾向も動物園、水族館で大差はない。

## 2. プログラムの目的について

各プログラムのねらいとして以下（表3）の項目を作り、複数回答で選んでもらった。

表-3 プログラムのねらい

①	理科	⑥	動物園・水族館の理解
②	理科以外の学校教育	⑦	情操
③	自然・環境	⑧	アート
④	野生生物	⑨	文学
⑤	動物愛護	⑩	その他

最も多かったのは「動物園・水族館の理解」で約64%、ついで「自然・環境」が約53%、「動物愛護」が50%、「野生生物」が約46%であった（図11）。水族館に「理科」や「自然・環境」という科学的側面をねらいにあげるものが多く、動物園に「動物愛護」や「情操」という精神的側面をあげるものが多い傾向にあるが、動物園・水族館ともに最も多い

図-9 各年齢区分のみを対象とするプログラム分布

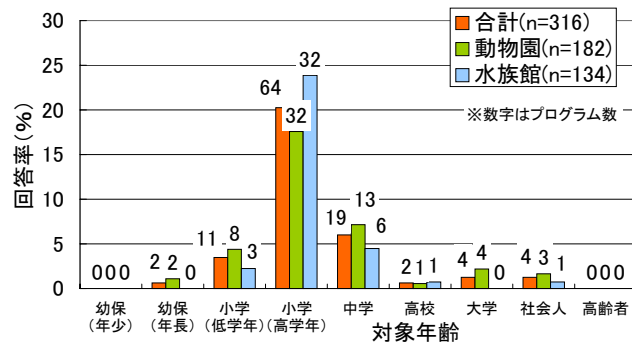
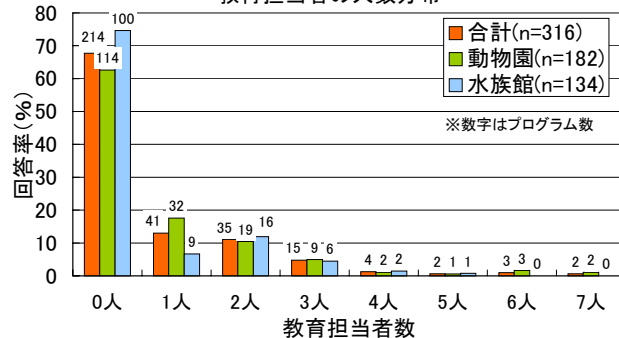


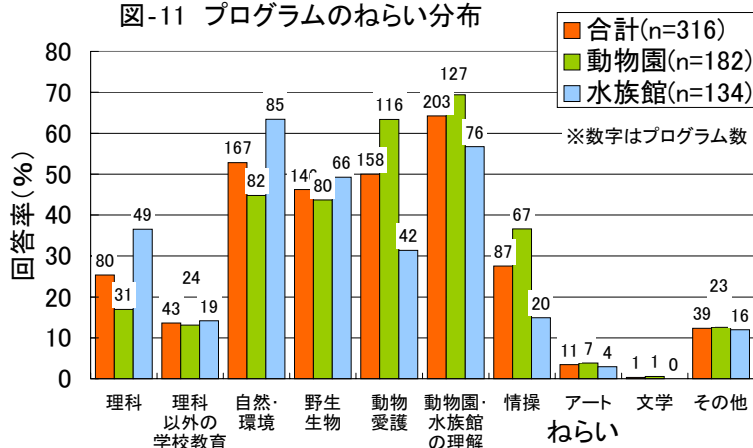
図-10 プログラム実施者中の教育担当者の人数分布





ねらいは「動物園・水族館の理解」である。動物園・水族館が、人間と動物とのかかわり、自然とのかかわりについての啓発・普及の窓口でありたいという意識の強さの表れととれる。動物園で2番目に多いねらいは「動物愛護」であるが、ヒアリング調査において複数回答に順位をつけてみたところ、「動物愛護」が1位

図-11 プログラムのねらい分布



になるものはなかった。動物園の多くのプログラムに、ねらいとして「動物愛護」も含まれるという意味であり、動物園・水族館の役割としての認識の推移を感じさせる。

ただ、それらを意識するあまり、プログラムの内容がねらいに向かって直線的すぎる傾向がある。プログラムを通じて感じて欲しいことや理解して欲しいことへと自然に導き、参加者個人の感想としてねらいに到達させるというより、結論そのものを言葉で伝えているきらいはある。その意味では、一見、教育的なプログラムに思えなくても、単に「楽しそうな」または「おもしろそうな」プログラムが、結果的に教育的効果を果たすように考案されたと思えるものが少ないといえる。これはヒアリング調査でさらに明確に感じるところでもある。またプログラム実施後の検証を行い、その結果を次回に生かす作業をプログラムの一環として組み込んでいる園館も少ない。プログラムの多様性が評価される一方で、具体的な内容や運び、手法、事後の検証については検討の余地がある。

## ヒアリング調査

実地調査として実際にプログラムを観察、または担当者に直接、話を聞いたヒアリング調査は 14 園館 16 プログラム（表 4）。モデルプランとして共有化が可能と思われるものについて、準備を含めた実施方法の詳細を記録した。さらに共有化へ向けてのアレンジ法および展開方法についての模索と問題点を検討した。詳細については「資料編 3 .」参照。

表 4 ヒアリング実施プログラム

カテゴリー	プログラム名	園館名
飼育体験（サマースクール型）	水族館を知ろう	千歳サケのふるさと館
飼育体験（貸出し・飼育補助）	タートルバンク	姫路市立水族館
ガイド（スポットガイド）	フィーディングタイム・スポットガイド	横浜市立よこはま動物園
ガイド（ガイドツアー）	リレーガイド	川崎市夢見ヶ崎動物公園
ガイド（ガイドツアー）	おとまりスクール	大阪・海遊館
講座（動物対象）	骨格標本を用いたレクチャー	広島市安佐動物公園
講座（動物対象）	動物君たちの一日	大阪市天王寺動物園
観察会・実験（実験）	マグロの解剖と解説	東京都葛西臨海水族園
観察会・実験（実験）	プランクトンの観察	滋賀県立琵琶湖博物館
学校・授業対応（出張授業）	出張授業	旭川市旭山動物園
学校・授業対応（遠隔授業）	遠隔授業	海の中道海洋生態科学館
学校・授業対応 （実習受け入れ）	教育学部教育教員養成課程学生 実習	富山市ファミリーパーク
レクリエーション併用型 （クイズ）	ズー・オリエンテーリング	埼玉県こども動物自然公園
ふれあい（タッチ）	イルカのアニマセラピー	江ノ島水族館
ふれあい （搾乳・ヒツジの毛狩りなど）	展示搾乳	埼玉県こども動物自然公園
その他 （地域支援・ビデオ他貸出し）	藤沢メダカの学校を作る会支援 活動	江ノ島水族館

## 今後の課題とまとめ

動物園・水族館の教育プログラムは、さまざまな分野との連携を見せ始め、従来にはなかった視点と切り口を伴って多様化している。単に教育の一分野としてではなく、教育を包括的にとらえてアプローチするときの一形態として、動物園や水族館の意識が変遷しつつあることを実感する。総合的な自然教育・環境教育の場として、ますますの充実を期待したいが、その妨げとなっている要素は多いと言わざるを得ない。プログラムの効果や実施に関する諸問題を各園館独自に評価してもらった「図 12 プログラムの自己評価分布」の結果が、動物園・水族館ともに類似した結果になっていることから、妨げ要素は共通しているものと思える。

### 専門スタッフ導入の必要性

まず、教育専門スタッフのいる園館はまだ少なく、プログラム作りを飼育スタッフの才能と技量と気力に頼っているのが現状である。これは将来的にも既存の水準を保てる確証がないことを意味する。動物園・水族館の活動としての発展を確保し、かつ定着させるためには、専門スタッフの導入を検討する必要がある。人手不足で各プログラムの参加者数が制限される結果、教育活動全体における動員数が頭打ちという現状も、専門スタッフのもとボランティアを利用することで改善できる可能性がある。さらに、専門スタッフのいる園館において、プログラムの多様性がより高いことも導入の意義として重要である。

図-12-1 プログラムの自己評価分布  
(動物園・水族館合計n=316)

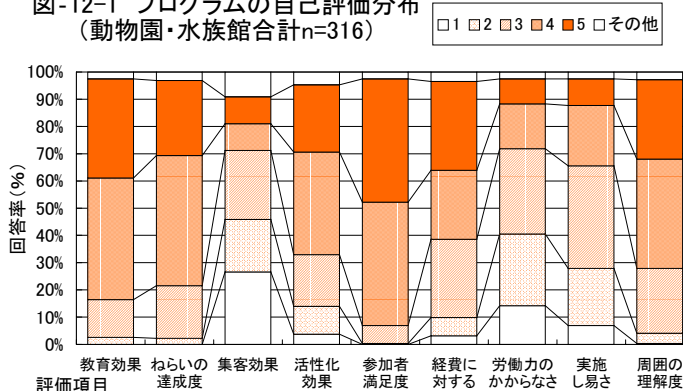


図-12-2 プログラムの自己評価分布  
(動物園n=182)

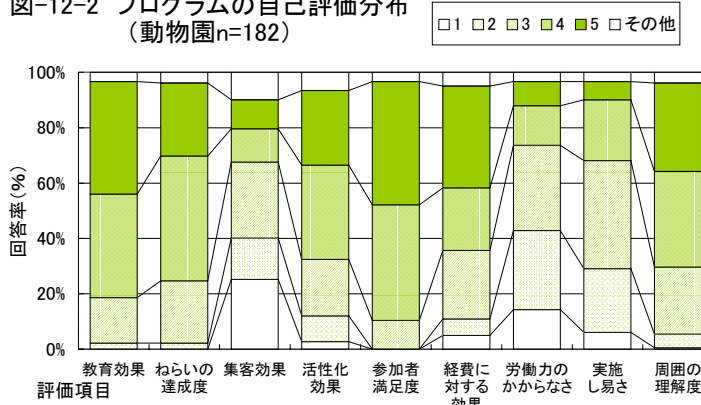
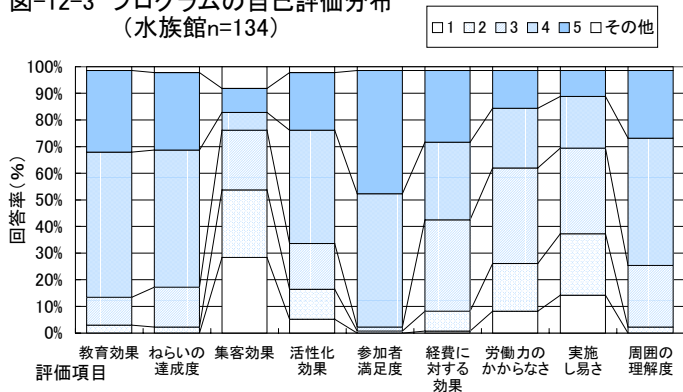


図-12-3 プログラムの自己評価分布  
(水族館n=134)



### **専門家を取り入れたプログラム研修の検討**

多様化するプログラムを内容的にさらに充実させるため、プログラム作りに関する研究が必要であると思われる。プログラムのねらいを達成するための手法には、まだ検討の余地があると思えるものが多く、教育的であろうとするがゆえに遊びの要素が不足していると思えるものや、結論を急ぐあまりの一方通行と思えるものも少なくない。参加者の反応を事後追跡して改良を加えていく姿勢も不十分である。開発が進んでいないと思える未就学・小学校低学年児童対象プログラムの充実も含め、外部から専門家を取り入れた研修や研究会を提案したい。世間一般の動向と平行させ、かつマッチさせたプログラム作りを考えていくためにも必要である。また、少人数の実施者で大勢の参加者に対応できるプログラムの開発を進めるためにも必要であろう。

### **類似プログラム別マニュアル作成の検討**

類似のプログラムであっても、各園館独自の工夫がそれぞれにあり、それらを参考にすることで、現行のプログラムをさらに発展させることが可能であると考えられる。各園館の環境や事情によってプログラムの共有化に問題が残るものの、類似プログラムを総合的にまとめたマニュアル作りに意義はあると考える。きめ細かい発展のヒントをもたらし、共有化により動物園・水族館教育の全国的な底上げと充実をもたらすと推測する。

### **学校との連携システムの確立**

2002年度からの新学習指導要領にともない完全実施される「総合的な学習の時間」に対応するものとして今後、動物園・水族館への期待は高まると予想されるが、各園館が展開しつつある学校対応のプログラムは、その期待に応えることが十分に可能である。ただし現状では、学校サイドとの連携が確立しにくく、円滑な実施への大きなネックになっている。園館側の担当人員が確保できないことで受け入れに限度のあることや管轄の違いもネックではあるが、学校と動物園・水族館が情報交換しながらともにプログラムを作り上げることができるシステムの確立が急務であると考ええる。

最後になったが、本調査を実施するにあたり、ご協力いただいた動物園・水族館に深謝したい。この場を借りてお礼を申し上げます。

資料編 1. カテゴリーサーチ検索結果

カテゴリー別サーチ(動物園・水族館合計)

アンケートで寄せられた全316プログラムの中から、  
以下のカテゴリーに当てはまるプログラムを検索します。

※アンケートの回答を参考としカテゴリーを決めています。

	各カテゴリーを メインとする プログラム	各カテゴリーを 取り入れた プログラム
1. 飼育体験	69件 22%	96件 30%
(1) サマースクール型	64件 20%	89件 28%
(2) 貸し出し・飼育補助	5件 2%	7件 2%
2. ガイド(裏側ガイド含む)	49件 16%	105件 33%
(3) スポットガイド	17件 5%	22件 7%
(4) ガイドツアー(表)	14件 4%	43件 14%
(5) 裏側ガイド	16件 5%	48件 15%
(6) セルフガイド	2件 1%	7件 2%
3. 講座・教室	29件 9%	129件 41%
(7) 動物対象	23件 7%	107件 34%
(8) 工作その他	6件 2%	40件 13%
4. 観察会・実験	60件 19%	100件 32%
(9) 展示観察	14件 4%	38件 12%
(10) 実験	11件 3%	38件 12%
(11) 施設内フィールド	5件 2%	9件 3%
(12) 施設外フィールド	30件 9%	43件 14%
5. 学校・授業対応	47件 15%	54件 17%
(13) 出張授業	5件 2%	7件 2%
(14) 遠隔授業	2件 1%	3件 1%
(15) 校外授業	15件 5%	20件 6%
(16) 職場訪問	12件 4%	13件 4%
(17) 実習受入れ	6件 2%	7件 2%
(18) 移動動物園 (学校以外も含む)	7件 2%	8件 3%
6. (19) 教員対応	3件 1%	5件 2%
7. レクリエーション併用型	20件 6%	59件 19%
(20) クイズ	12件 4%	39件 12%
(21) ゲーム・レース	3件 1%	12件 4%
(22) 写生・写真など	5件 2%	11件 3%
8. ふれあい	32件 10%	133件 42%
(23) タッチ	26件 8%	71件 22%
(24) えさやり	4件 1%	79件 25%
(25) 乗馬など	1件 0%	10件 3%
(26) 搾乳・ヒツジの毛刈など	1件 0%	3件 1%
9. (27) その他(地域支援、 ビデオ他貸し出しなど)	7件 2%	20件 6%

例えば、飼育体験を主とし、クイズとえさやりも盛り込んだプログラムは、  
『1.飼育体験 サマースクール型』を主カテゴリーとし、  
『7.レクリエーション併用型 クイズ』と『8.ふれあい えさやり』を副カテゴリーとする。

【各カテゴリーをメインとするプログラム】とは、そのカテゴリーを主カテゴリーとするプログラムを指し、

【各カテゴリーを取り入れたプログラム】とは、そのカテゴリーを主、又は副カテゴリーとするプログラムを指す。

## クイックサーチ

アンケートで寄せられた全316プログラムの中から、  
以下の特徴を持つプログラムを検索します。

※アンケートへの回答が一定の基準を満たしているプログラムを選出しています。

1 簡単プログラム	42 件	13 %	比較的実施が容易なプログラム。労働力や経費などの自己評価より判断
2 しっかり教育プログラム	115 件	36 %	教育効果、ねらいの達成度が高いプログラム。
3 にぎやかプログラム	78 件	25 %	活性化効果、にぎやかし効果が高いプログラム。
4 50人以上参加可能プログラム	59 件	19 %	参加者数が50人以上あり、且つ実施し易い参加者数も50人以上のプログ
5 総合学習向けプログラム	9 件	3 %	総合的学習の時間を意識して開発されたプログラム。
6 少経費プログラム	40 件	13 %	経費効果が高く、労働力が少なくて済むプログラム。
7 一人で実施可能プログラム	41 件	13 %	実施者が一人のプログラム。
8 おとまりプログラム	14 件	4 %	宿泊を含むプログラム。
9 当日申込みプログラム	81 件	26 %	当日申込みで参加が出来るプログラム。
10 理科向きプログラム	80 件	25 %	ねらいに理科を含むプログラム。
11 アート向きプログラム	11 件	3 %	ねらいにアートを含むプログラム。
12 社会人向きプログラム	65 件	21 %	対象に社会人を含むプログラム。
13 幼稚園、保育園向きプログラム	48 件	15 %	対象に幼稚園・保育園の園児を含むプログラム。
14 ボランティア型プログラム	3 件	1 %	ボランティアが中心となって実施するプログラム。
15 取材受け入れプログラム	32 件	10 %	取材を多く受けているプログラム(3媒体以上)。
16 共催プログラム	36 件	11 %	地域団体・学校などとの共催で実施されたプログラム。

資料編 3 . プログラム概要一覧

教育プログラム  
動物園・水族館概要一覧 316件

▼北海道地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z011	円山	<a href="#">昆虫教室</a>	郊外までバスで出かけ、昆虫を採集する。昆虫の名前や生態などを飼育課職員が解説する。昆虫採集を通じて自然の大切さについても学ぶ。
Z012	円山	<a href="#">一日飼育係</a>	小学校高学年を対象として、1日飼育係を体験させる。午前は飼育体験、午後は講義形式での学習を行う。動物愛護と豊かな情操を育ててもらう。
Z013	円山	<a href="#">親子夜の動物ウォッチング</a>	小・中学生と、その保護者を対象とする。職員の案内で、夜間でなければ見れない動物の生態を観察する。
Z021	旭山	<a href="#">旭山動物園 出張授業</a>	学校に出向き、教師に代わって授業をする。内容はこちらで用意したプログラム案の他に、学校側からの依頼にできるだけ対応している。主に、理科・生活科・道徳・総合的な学習の時間。
Z022	旭山	<a href="#">園内ガイド</a>	園内の動物についてのガイド
Z023	旭山	<a href="#">子ども牧場 ワンポイントガイド</a>	来園者の入り具合にあわせて、子ども牧場スタッフが日替わりでガイドをする。ガイドをする動物も日替わり。
Z031	帯広	<a href="#">サタデークラブ</a>	学校の週末となる第2・4土曜日を利用し、動物の飼育体験と授業を行います。この事業を通じて動物の知識と動物への理解を深めて頂き、さらに動物園の果たす役割についても学んで頂くことを目的にしています。
Z032	帯広	<a href="#">裏側探検隊</a>	普段見ることのできない動物舎の裏側を飼育係が案内し、動物舎や動物の話聞いて頂きます。そのことにより、自然や動物についての知識や理解を深めていただくことを目的にしています。さらに動物園の果たす役割についても学んで頂くことを目的にしています。
Z033	帯広	<a href="#">一日飼育係</a>	動物の飼育体験を通じて動物に対する知識と理解を深めて頂き、さらに動物園の果たす役割についても学んでいただくことを目的にしています。
Z041	登別	<a href="#">牧場ガイド</a>	エゾヒグマ放飼場 観覧台1:2 飼育係が行うガイド。4月下旬から11月上旬まで、毎日午前1名、午後1名の飼育係が、当園の動物の生活等や野生との比較、北海道の自然、当施設の概要などをハンドマイクにて話す。時間は決めていなく、観覧台に観客がいれば行う。約20分。
Z042	登別	<a href="#">クマさん教室 秋の部</a>	小学校高学年を対象に、クマを通して自然の大切さやしぐみを学ぶ。
Z043	登別	<a href="#">再発見、わがふるさと登別温泉(総合的な学習)</a>	クマをはじめとする自然の生態を調べ、登別温泉は自然と共に成り立っていることを再発見し、さらに地域への発信活動をする総合的な学習の一環
Z051	釧路	<a href="#">こどもどうぶつえん団体指導</a>	幼児、小学校1年生を対象に、ウサギとのふれあいを楽しんでもらう。初歩的な部分を担うので、基本的なことを短い時間で行う。
Z052	釧路	<a href="#">サマースクール</a>	小学5年～中学3年50～55名を対象に、2日間にわたり飼育体験および動物学習を行う。
Z053	釧路	<a href="#">紙粘土で動物をつくろう</a>	生きた動物をモデルに粘土で作品を作る。動物を観察する眼を養うとともに、作る楽しみをとそれを通じた動物愛護の精神を養う。
A021	小樽水	<a href="#">水族館体験隊</a>	飼育現場の実体験を通じて、海洋動物の飼育上の苦労や喜びを知り、動物愛護の精神や生物全般への理解を図る
A022	小樽水	<a href="#">裏方見学(バックヤードツアー)</a>	自主研修対応の一環として、水族館職員のガイドの下、飼育の舞台裏を見学し、給餌体験をはじめ、直接手で触れてもらうことを通じて生物への興味・関心を図る
A023	小樽水	<a href="#">磯の生物観察会</a>	水族館構内の海浜で磯の生物を採集し、その種名を調べたり、貝や海藻の標本作りに挑戦するなど、身近な海洋生物に対する興味・関心の高揚を図る

A051	広尾	夏休み学習講座	夏休みの1日をとおして、水族館の生物とふれあい、飼育を体験し、生物への理解と愛護の精神を養う
A052	広尾	初心者向けコンピューターによるお絵描き講座	パソコンの操作方法と、イラスト作成ソフト使用によるイラスト作りの指導(初心者向け)
A061	サンピ	一日飼育係	水族館飼育係の一日体験
A062	サンピ	親子夜間観察会	夜の水族館見学会
A071	ニクス	親子ふれあい体験学習	海の生き物についてレクチャーをし、給餌体験をしてもらう。他、海獣ショー、施設見学など。予約者のみ参加
A072	ニクス	イルカ博士講座	イルカの生態を通して、生命や生き物を大切に、環境を守る必要性を考えるという目的で実施。イルカについての学習をし、ショー見学後、給餌やタッチングを行う内容
A073	ニクス	アシカ博士講座	アシカの生態を学び、生命や自然環境に対する理解を深めさせることを目的に実施。アシカのレクチャー、飼育施設見学、給餌、タッチング、トレーナー体験を行う。
A081	サケ館	夏休み子ども水族館	魚を採集して調べ、ミニ水族館を作って展示する
A082	サケ館	水族館を知ろう	水族館の裏側を見学し、オープン準備、餌やりなどを体験する(実施日は休館中)
A083	サケ館	ふるさと館自然観察会夏の巻「千歳川水生昆虫ウォッチング」	千歳川の水生昆虫を採集し、観察する
<b>▼東北地方</b>			
No.	園館	プログラム名	概要
Z061	大森山	羊の毛刈りなど動物飼育体験	動物とのふれあいや実際の動物飼育を通じて、こどもたちの豊かな心を育てよう。
Z062	大森山	第23回親と子のふれあい写生大会及び表彰式	動物の生態を観察してもらうと共に動物や自然に対する愛護の心や豊かな感性を育てる。
Z063	大森山	地域の小学校との飼料作物共同栽培について	動物園で飼育されている草食動物の糞を堆肥として利用し、飼料作物栽培を地域小学校生と協同で一連の作業を行う。この作業を通して作物を育て、収穫の喜びなどを感じてもらう。
Z071	盛岡	自然観察会「森のノネズミ探検隊」	園内の林で3種のノネズミをライブトラップで捕獲し、生息環境とすみわけ、形態との関わりについて観察、学習する。
Z072	盛岡	自然観察会「夜のこん虫探検隊」	園内の林で様々な方法により、夜活動するこん虫を集め、観察し、生態について学習する。
Z073	盛岡	自然観察会「夏のトンボ探検隊」	園内の池や沢で、トンボのヤゴを捕獲、観察し、生息環境について学習し、ヤゴがたくさんすめるような生息環境づくりの作業を行う。
Z081	八木山	サマースクール	仙台市内の小学校生5、6年に在籍の児童による、一日飼育体験学習。
Z082	八木山	八木山動物公園・学習隊	市内・動物園にもっとも近い(3分ぐらい)仙台市立八木山小学校が地域施設として学習に利用している。3年生:動物についての質問を、4年生:動物園で「はたらく人」の学習を、5年生:それらをまとめてHPで発表する。と分担を分けて学習している。小学校のHPに有り。
Z083	八木山	ガイドツアー	飼育動物の生態・特徴及び施設の裏側を見せよう
A091	浅虫	イルカ教室	イルカの講義とイルカへの給餌、タッチ、記念写真
A092	浅虫	サマースクール	小学校高学年を対象に、海辺での生物採集、観察会
A093	浅虫	青森県の魚展	「青森県の魚」ヒラメの増養殖、変態前後の不思議な生態などを特別展示



A101	男鹿	職場訪問学習	飼育係の作業見学や、飼育施設の見学と説明を受けます。見学後に、研修室において質問や疑問に答え説明を受けます。生徒は、働く意義や将来の職業選択に役立てます。
A102	男鹿	うら側探検隊	普段は見るできない水族館のバックヤードを見てもらう。また、それにより飼育員の仕事を理解してもらう。
A111	松島	テレビ会議システムを用いた「遠隔授業」	NTTに事務局を持つコネットプランの活動プログラムの1つ「遠隔授業」に協力参加。内容は水族館の生物を話題とし、各種教材を用い飼育係が講師となって遠隔地の小学生を相手に45分程度の授業を行なう。今回は1日3講義、2日間実施した。
A112	松島	飼育体験隊	毎年、7月下旬の2日間、小学生5、6年生を対象とし、飼育係の仕事を体験することによって、水族館と生き物への理解を深めてもらうことを目的に実施している。
A113	松島	ペンギンの給餌解説	ペンギンの給餌と同時に、担当飼育職員が見学者に簡単な解説を行う
A121	加茂	記載なし	磯の観察採集と館長講話
A122	加茂	記載なし	小学生の夏休み宿題お手伝い。親子「クラゲ観察会」
A123	加茂	飼育係体験	小学生に飼育係の体験をさせる
A151	上越	「桑取川のサケ」観察・体験学習	上越市の桑取川に海から戻ってきたサケや産卵の様子、ふ化場などの見学を行います。
A152	上越	上越市水族博物館写生会	水族博物館の様々な水生生物を写生することにより、より詳しく観察してもらう
A153	上越	「飼育係の一日」	飼育の仕事を飼育係といっしょに体験する。ブロックが3つあり、それぞれ第Ⅰブロック…熱帯の魚、第Ⅱブロック…温帯と寒帯の魚、第Ⅲブロック…ペンギンとアザラシ。なお、対象は第2、第4土曜日が小・中学校、第3日曜日が一般となっている
A161	寺泊	裏側見学(特に名称はない)	学校団体を対象に水族館の仕事や裏側見学、質疑応答などを行う
A162	寺泊	移動水族館教室	小学校に水槽などの飼育設備と生物を貸し出し、約1ヶ月、飼育観察を行ってもらう
A163	寺泊	親子わくわく魚ランド	小学生の親子5～7組を募集。水族館の裏側見学や餌やり体験をとおり、水族館の仕事やしぐみを学ぶ。

#### ▼関東地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z091	宇都宮	ペット教室(ウサギ、小鳥など)	依頼のあった各学校へ行き、小動物の飼育の仕方などを子供達にお話をしたり、質問に答えたりする
Z092	宇都宮	動物ガイド	記載なし
Z093	宇都宮	夏休みサマースクール	宇都宮市内の3年生以上の小学生を集め、実習、勉強会を行う。
Z101	桐生	動物園一日飼育員	市内小学6年生を対象とした飼育体験のサマースクール
Z111	群馬	移動動物教室	地区内小学校に出向き、ふれあい・クイズ・写生等の動物教室を行うもの
Z151	大宮	職場体験学習	前もって先方(中学校)より依頼を受け、実際にサルや鳥類の飼料づくりを行い、給餌を行う。また、ぞうきんを持参してもらいフライングゲージ内の手すりのよこれをおとす作業をしてもらった。
Z161	埼玉動	展示搾乳	園内飼育中の乳牛の解説と搾乳体験
Z162	埼玉動	ズー・オリエンテーリング	用紙の内容にそってポイントを回りスタンプを押す。ポイントにはハンズオンの資料等が置かれている。セルフガイド。

Z171	東武	<a href="#">ふれあい動物教室</a>	幼稚園、小学校低学年の団体を中心として、事前に予約を受け付け、1クール約30分単位でウサギ、モルモット、ヒヨコの抱き方を教え、実際にひとりひとり抱いてもらう。時間がある場合は簡単なクイズも行う。
Z172	東武	<a href="#">サマースクール</a>	小学校3～6年、中学生を対象とした1日飼育体験
Z173	東武	<a href="#">アニマル・ビンゴクイズ</a>	園内5ヶ所①カバ・ゾウ②猛獣③アフリカサバンナ④ラクダ・ラマ⑤モンキーハウスにとりはずしできる看板が用意しており、普段は解説版になっている看板をとりはずし、合計で9問のクイズの看板にかけなおし、東・西ゲート、動物村に用紙を置き、ビンゴ形式のクイズに答えてもらう。
Z181	智光山	<a href="#">サマースクール</a>	サマースクールは、子供たちが動物の1日飼育作業体験や、直接動物に触れて観察することなどにより、動物に関する知識を深めると共に、動物愛護の精神を養うことを目的とする。
Z182	智光山	<a href="#">移動動物教室</a>	こども動物園では、平成元年より自主活動として、市内の幼稚園、保育園(所)を対象とした、移動動物教室を入園者が著しく減少する冬期閑散期(12月、1月)を利用して、当園の午前中のふれあいの時間帯に、各園へ職員を派遣して実施しております。園外での教育普及活動、動物愛護精神の育成及び利用促進のため広報活動の一環として小動物とのふれあいを中心に、移動動物教室を実施しています。
Z183	智光山	<a href="#">ホタル観察会</a>	近年、自然保護に対する関心が高まりとともに、ホタルに対する市民の関心も一層高まっております。狭山市智光山こども動物園では、平成元年から園内で養殖したホタルの幼虫をホタル放飼場に放し、飛び交う様子を夜間市民の皆様にも場外で自由に観察していただいておりますが、さらにホタルに対する関心を深めていただくため企画しました。
Z191	上野	<a href="#">ウサギ・モルモットふれあいコーナー</a>	2～6月と、9～11月の8ヶ月間、毎日実施。開催時間は曜日により異なるが、これは主体となる団体が複数あるため。火・木曜は当園職員とアルバイト、水・金・土曜はシルバーガイド、日・祝日はTZVが主体となって実施している。場所は子供動物園内の屋内施設「曲屋」で実施しているが、入場者数が制限されるので屋外における同様の活動を現在試行中である。
Z192	上野	<a href="#">サマースクール</a>	事前公募で小学1・2年、3・4年、5・6年の3クラスに対し、1日(1・2年は半日)のコースのサマースクールを行う。
Z193	上野	<a href="#">団体指導「どうぶつとあそぼう」クラス</a>	2～6月と9～11月の8ヶ月間、毎週火・木曜日の午前中に、1回20分を3時限、各4コース実施する。参加は実施1週間前までに電話等で予約した、4歳以上の保育園・幼稚園児、小学1・2年生を対象とする。また、水曜日の午前中は、障害児クラスを同様の内容で1日1クラス受け付けている
Z201	多摩	<a href="#">サンデースクール</a>	動物園の裏側で起こる普段知ることのできない様々な出来事を飼育担当者がVTR、スライド、標本等を使ったり、実際の動物を前にしたりしながら話をする。
Z202	多摩	<a href="#">ガイドツアー</a>	園内の動物たちを、動物解説員が説明しながら案内して回る。対象：一般来園者。毎日11:00～11:45、14:00～14:45の2回実施。
Z203	多摩	<a href="#">ウサギ・モルモット教室</a>	土・日・祝11:00～12:00と13:00～14:00平日は団体予約のみ。飼育係やボランティアが、ウサギ・モルモットなどの扱い方、抱き方を説明し、ふれあってもらう。対象：幼児～小学生
Z211	井の頭	<a href="#">サマースクール</a>	小学校高学年に飼育体験をしてもらう
Z212	井の頭	<a href="#">楽しい虫の観察</a>	アメンボの観察
Z213	井の頭	<a href="#">ナイトツアー</a>	夜の動物園案内
Z221	大島	<a href="#">職業体験学習</a>	毎年定例的に実施。最高6名を限度として受入れている。本年度は2名の希望。
Z222	大島	<a href="#">職業体験学習</a>	愛知県の中高校生生徒210名が大島に来島。各施設に分かれて実習。8名を大島公園で受入れ。
Z231	羽村	<a href="#">一日飼育教室</a>	記載なし

Z232	羽村	<a href="#">ナイトツアー</a>	通常は入園できない夜間の見学会
Z251	江戸川	<a href="#">一日飼育体験教室(サマースクール)</a>	7/25～27の3日間は小学校3～4年生対象(9:45～15:00)。7/28は小学校5～6年生対象(8:45～15:00)。
Z252	江戸川	<a href="#">親子一日飼育体験教室</a>	①9/24(日)②10/1(日)8:45～15:00 小学校1～2年生と保護者1名。毎年10/1前後の日曜日2日間行っている。
Z253	江戸川	<a href="#">ふれあい事前指導講習会</a>	ふれあいコーナー団体利用の保育園、幼稚園、小学校の先生対象の講習会。団体利用の仕方の他に、ウサギ、モルモット等の飼育方法やふれあいコーナーの動物について、実際に、見学や触って学んでもらう。
Z271	千葉	<a href="#">小学校動物体験学習</a>	動物の飼育体験を通し、動物の正しい知識の習得並びに動物愛護の精神及び生命の尊厳を目的とする。ただし、現場がリニューアル工事中のため平成11年度に実施したものを記入する。
Z272	千葉	<a href="#">動物公園アニマルスクール</a>	教育普及事業の一環として、標本等を使用し動物の生態や形態をわかりやすく紹介し、動物に対する不思議・疑問に答える。
Z273	千葉	<a href="#">動物公園サマースクール</a>	飼育体験学習を通して、動物への正しい知識を得ていただくと共に動物愛護精神を養ってもらうことを目的とする。
Z281	市川	<a href="#">動物園ガイド -調理室探検-</a>	一般の市民が動物の何に一番興味を持っているのか？長年の教育活動の中で動物のエサに関心が高いことがわかり、飼育員が直接その解説を行う。
Z282	市川	<a href="#">サマー動物教室</a>	小学生を対象とした一日飼育体験
Z283	市川	<a href="#">団体対応</a>	園内「なかよし広場」にて、団体の来園者がヒヨコ、ウサギ、モルモットにさわっていただく
Z291	市原	<a href="#">動物〇×クイズ</a>	園内の広場で参加者を募り、クイズに答えてもらう。
Z292	市原	<a href="#">ぞうさんと鴨川の海で遊ぼう！</a>	海辺をぞうさんに乗って散歩したり、砂浜で綱引きやバーベキューをして、忘れられない夏の思い出をつくって頂く。
Z293	市原	<a href="#">動物レース</a>	5頭羽の動物の中から好きなものを選び、ゲートイン。一緒にゴールを目指して走る。
Z301	夢見	<a href="#">サマースクール</a>	昭和49年から実施。小学5、6年生を対象に、夏休みを利用し、動物園の持つ役割、動物との正しい接し方を説明し、平常では展示動物を見るだけの受け身の利用に対して飼育作業を共に行うことにより、正しく動物の理解し、自然科学に対する愛好心、自然や環境保護思想の育成を図る1日飼育体験。
Z302	夢見	<a href="#">生活科</a>	小学校1年生生活科「どうぶつとなかよし」の単元で実施。平成2、3年と生活科試行の時から実施している。飼育作業を行いながら、哺乳類と鳥類の体や飼料、接し方、飼い方などを説明し、終了後、質疑応答を行う。(1日1学級)
Z303	夢見	<a href="#">動物解説(リレーガイド)</a>	総合的な学習及び生活科の時間に学年単位で実施。飼育動物の諸々の解説を担当者が行なう。(1学年の生徒数を引きつれたのガイドツアーは、解説の行き届きに無理が生じるため、見学コースを6つに分けて、それぞれに職員がついて、6回の解説を行ない、同時進行する)
Z311	野毛山	<a href="#">児童による1日飼育</a>	毎年市内の小中学生(5、6年生)を対象に、1日飼育を体験してもらうことにより、動物への理解や関心を深めてもらう。さらに動物園の役割についても学んでもらう。
Z312	野毛山	<a href="#">サマースクール</a>	野毛山動物園と万騎が原ちびっこ動物園で開催。18歳以上の市内の小・中学生や幼稚園等の教育に携わる人か、動物に関心を持つ18歳以上の市民が対象。飼育体験をしながら、園の理解を深めてもらう。
Z313	野毛山	<a href="#">ゴールデンウィークイベント</a>	5月のゴールデンウィーク時に開催するもので、展示動物を職員が解説したり、ボランティアさんのパネルの解説、クイズラリーなどをおこなった。
Z331	横浜動	<a href="#">ウォーキングツアー</a>	よこはま動物園内の各ゾーンを、およそ45分間をかけて、動物園スタッフが案内する。対象は一般来園者。参加者の多くは社会人である。動物のみならず、その環境や文化もとりあげ、幅の広いガイドを実施している。

Z332	横浜動	<u>夏休みズーラシア教室</u> <u>～夏の冒険・エサを探しに行こう！～</u>	「動物たちの餌のはなし」を中心に、飼育係が「動物たちの夏」について解説。園内の雑木林で、裏側に置かれた水槽で、動物たちの餌を捕り、それを食べる所を観察しながら、動物のライフスタイルを探る。
Z333	横浜動	<u>フィーディングタイム・スポットガイド</u>	フィーディングタイム：日常のルーチンの中で実施、公開＋説明。スポットガイド：各担当の中から1種程度選択し、曜日と時間を指定し説明。
Z334	横浜動	<u>ズーラシア教室</u>	毎週内容を変えた目的ルームにて実施
Z341	小田原	<u>動物園はミュージアム</u>	動物園の仕事とは。飼料、添加物、動物の角や歯などの展示(実際に触れてもらう)。対象年齢や人数にもよるが、小動物は持込み、触れたり、見たり、感じてもらう。クイズ、質問など。
A181	大洗	<u>水生生物講習会</u>	県内の小・中学校教員を対象に、水生生物に対する知識の普及と博物館相当施設として教育の活動の一環としている
A182	大洗	<u>親子で学ぶ磯の生き物</u>	親子を対象に身近な磯に生息する生物を実際に触れ観察する体験型講座
A183	大洗	<u>アクアリウム講座「サマースクール」</u>	夏休み期間を利用し、県内の小学校4年生から6年生を対象に生物等に関する講座を行う
A201	鴨川	<u>サマースクール</u>	小学生を対象とし、飼育動物の観察や実験を通して野生動物や自然環境についてレクチャーする
A202	鴨川	<u>動物友の会 月例会</u>	友の会会員を対象として毎月1回実施。毎月テーマとなる動物を決め、その特徴や飼育施設について実験や観察を通してレクチャーする
A203	鴨川	<u>学校用特別プログラム</u>	修学旅行や校外学習でより楽しく海の動物について知ることのできる学校団体用特別プログラム
A211	埼玉水	<u>水族館サマースクール</u>	埼玉県内に生息する魚類等と触れ合いながら生態、形態を学習する。いろいろな生物の学習を通して、自然と人間の係わり合いを知る。水族館の社会的機能を再認識してもらう。
A212	埼玉水	<u>コイの卵を育てよう</u>	ニシキゴイの卵を無料配布し、家庭でふ化の様子を観察し、魚に対する興味を深めてもらう
A213	埼玉水	<u>探検ツアー</u>	11時と14時の二回、希望者を募ってバックヤードを見学させる。概ね20名を1組として飼育スタッフが案内しながら解説する。
A231	葛西水	<u>スタッフトーク</u>	当園の生物に関わる職員(飼育・収集)が、仕事の裏話等を紹介する。
A232	葛西水	<u>イレブンオリエンテーリング</u>	園内をまわりながら、11ヶ所のチェックポイントでクイズに回答してもらう。クイズは主に水槽の生物の観察をすれば判るもので、全問回答した人に点数に関係無く絵はがきを授与する。
A233	葛西水	<u>マグロの解剖と解説</u>	マグロがどのような生物なのか理解してもらうために、実際にマグロの解剖のようすを見せながら、解説を行う。
A261	油壺	<u>水族館飼育管理施設見学会</u>	普段見ることのできない水族館のバックヤードを、当館係員がご案内します。
A262	油壺	<u>クサフグの産卵観察会</u>	クサフグは波打ち際で集団産卵する変わった習性がありますが、油壺はその産卵地として有名です。当館では、産卵の最も多く見られる月に観察会を設定し、開催しています。
A263	油壺	<u>磯の生物観察会</u>	当館下の磯にて生物の採集を行い、採取した生物について飼育員が解説。
A271	江ノ島	<u>クラゲ飼育キット教室</u>	クラゲを手にとって体制、餌の食べ方などを観察、クラゲの生活史の説明を受ける。クラゲ飼育キットの使い方を練習した後、実際にクラゲ(エフィラ幼生)と飼育キットを持ち帰り、家庭にて1ヶ月間飼育を行い成長の様子を観察し、記録に残す。後日成果を発表し、飼育結果について自己評価する。
A272	江ノ島	<u>江の島探検クラブ</u>	環境測定キット(水質を測定する)の一部製作、使用法の練習、フィールドにおける環境測定、海岸動物の観察、測定結果のまとめと観察された動物との関連性の認識、環境と人間のかかわりを考察する。

A273	江ノ島	<a href="#">イルカのアニマセラピーの世界</a>	実物大模型や身体の一部レプリカ(手ざわりなどを忠実に再現)、解説板を用いて、鯨類(特にイルカ類)について解説、イルカへの接し方の説明の後、イルカ飼育プール内の特設ステージ(水深50cm)に入りイルカとふれ合い体験をする
A274	江ノ島	<a href="#">「藤沢メダカの学校をつくる会」支援活動</a>	藤沢市内小中学校教員を中心として組織された「藤沢メダカの学校をつくる会」の活動を専門的立場で支援し、一般市民の参加を促す
A281	八景島	<a href="#">水族館の裏側探検隊</a>	イルカ、魚類への給餌体験を含めた水族館の裏側の見学を通して、水族館や生物への関心と理解を深めてもらう
A282	八景島	<a href="#">ドルフィンフレンドシップ</a>	イルカとのふれあいイベント。イルカに触れたり、一緒に泳いだりして楽しんでいただく。又、イルカの能力、特徴について解説し、理解を深めていただく。本年度は小学生5年生以上の健康で泳げる方を対象に、7/8～9/10までの中の32日間行う。(うち1日は荒天で中止する)
A283	八景島	<a href="#">館内ガイドツアー</a>	解説板等では不足しがちな海や生物に関する細かな解説や飼育の裏話などのトピックスもお取りまぜて、館内を案内することで、より深く能動的に水族館を理解していただく。

#### ▼北陸地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z361	富山	<a href="#">学芸員実習</a>	動物園の博物館としての位置づけ、役割について実習指導。飼育展示動物だけでなく、園内の自然をも資料として活用するための調査から展示・解説までを実習し、また実施している活動の見学
Z362	富山	<a href="#">富山大学教育学部教育教員養成課程学生実習</a>	講義名・保育内容「子どもと環境とのかかわり」園内の豊富な自然環境を教材として、学生が体験することによって、将来、子供環境との間のインタープリターとなるための各種実習をおこなう。
Z363	富山	<a href="#">中学生職場体験学習「14歳の挑戦」</a>	連続した5日間、中学2年生の職場体験。動物飼育業務だけでなく、当園の特徴でもある自然普及・保全・活用についても体験指導。当園や動物園全般の役割、現状などについての講義をする。
Z371	高岡	<a href="#">高岡古城公園自然観察会</a>	高岡古城公園内をナチュラルリストの解説により自然観察を行う。
Z372	高岡	<a href="#">動物園まつり</a>	動物愛護週間にあたり、動物愛護思想の啓発普及をはかるとともに動物園の宣伝をはかる。
Z381	石川	<a href="#">サマースクール「飼育係に挑戦」</a>	層物飼育や動物観察の体験を通じて、動物園や動物、ひいては自然環境への深い理解を得ることを目的に一日飼育の仕事に挑戦する。
Z382	石川	<a href="#">動物教室「動物のお医者さんは大忙し」</a>	定例で開催している教室で、毎回動物や自然、動物園等の様々なテーマでレクチャーや観察会、見学会を実施する。今回は動物園の獣医の日常の様子や使用している用具等を知ってもらうことに主眼を置いた活動を行う。
Z383	石川	<a href="#">総合学習「弥生動物園をつくろう」(テスト実施)</a>	今度始まる総合学習のテストケースとして実施。金沢市立弥生小学校にあるウサギ等の飼育小屋を学校の動物園としてみたと、動物を様々な角度から調べ、飼育し、動物園を作っていく過程の活動。小学校3年生が実施し、今年度も現在引き継いで実施。
A341	魚津	<a href="#">水族館ナイトウォッチング 一夜のいきもの観察会</a>	普段見ることができない夜の水族館を見学して、生き物の夜と昼の生態を観察し、その違いを学習する。
A342	魚津	<a href="#">砂の中から貝を探そう</a>	水族館で用意した貝混じりの砂の中に含まれている貝を選び出し、種類分けや同定方法、整理の仕方を学習した。
A343	魚津	<a href="#">ふれあい学習会「ミジンコ観察会」</a>	水族館のまわりの田んぼにいるミジンコや小さな生物を採集して観察する。
A351	能登島	<a href="#">ふれあい移動水族館</a>	乗用車で小学校に出向き、子供たちに磯の生物を手で触れて観察してもらい、種類、体のつくり等を解説する。
A352	能登島	<a href="#">サマースクール</a>	地曳網を使って磯の生物を採集し、その種名、数等を調べ、生物をスケッチして解説を入れた魚名板をつくる。

A353 能登島 [ちびっこ1日飼育係](#)

飼育体験

▼中部地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z351	遊亀	<a href="#">幼児動物教室</a>	幼稚園、保育園児を対象に、ウサギ、モルモットについての話をしたり、ヤギの餌やり、ポニー乗馬、動物鳴き声クイズ等を行い、園児の情操教育を行う。
Z352	遊亀	<a href="#">動物園サマースクール(低学年の部)</a>	小学生(1~3年生)を対象に一日飼育係として動物舎の清掃、餌づくりを体験させ小動物との触れ合いやオリエンテーリング形式の動物クイズを行って、子ども達に動物愛護教育を施す。
Z353	遊亀	<a href="#">動物園サマースクール(高学年の部)</a>	小学生(4~6年生)を対象に一日飼育係として動物舎の清掃、餌づくりを体験させ小動物との触れ合いやオリエンテーリング形式の動物クイズを行って、子ども達に動物愛護教育を施す。
Z411	須坂	<a href="#">動物園体験学習</a>	市内及び近郊の中学校課外体験学習の一環として企画し、動物園・水族館業務プログラムに組み入れて、動物とのふれあいと作業体験を通じて学習する。
Z421	茶臼山	<a href="#">大人のための動物園飼育体験</a>	動物園の飼育体験をととして、動物園の社会的使命や動物愛護精神の普及啓蒙をはかることを目的とし、18歳以上の人を対象に実施。
Z422	茶臼山	<a href="#">サマースクール</a>	動物たちを身近に観察して触れ合いながら、正しい知識を深め、動物たちともっと仲良くなることを目的とし、小学4,5,6年生を対象に実施。
Z423	茶臼山	<a href="#">教職員のための動物園ガイド</a>	保育園・幼稚園・小学校・中学校の教師を対象に、動物の観察の仕方や動物園の利用方法、小動物の飼育方法のレクチャーおよび学校での総合学習と動物園のかかわりを模索することにより、動物園をより有効活用してもらうことを目的に実施。
Z431	飯田	<a href="#">中学生職場体験学習</a>	各中学校より職場体験学習の依頼があり、各中学校5~10名の人数で、朝8時より午後4時ごろまで、動物の飼育などの実習を行なう。
Z432	飯田	<a href="#">飯田市立動物園動物園ガイド</a>	動物園の概要、動物園での注意、動物の見方、動物の種類別解説
Z433	飯田	<a href="#">写生大会</a>	幼稚園、保育園、小学生、中学生を対象にした動物及び動物園内の風景を題材とする写生大会
Z441	大町	<a href="#">動物写生画会</a>	近隣地域の保育、幼稚園の園児及び小、中学校の児童、生徒の動物愛護精神を高め、描画教育並びに、文化の向上と親善を図る。
Z442	大町	<a href="#">動物園の一夜</a>	1泊2日の日程でキャンプ場にテントやバンガローに泊まり、夜の動物園見学や周辺の昆虫観察、星の観察会などを楽しむ。
Z443	大町	<a href="#">動物たちにふれてみよう</a>	触れるはく製を館入口に展示。実際に手で触れてもらい、動物たちに親しんでもらう。
Z471	伊豆バ	<a href="#">1日飼育体験教室</a>	記載なし
Z481	シャボ	<a href="#">動物紹介(解説)</a>	来園してくださったお客様に飼育している動物の説明および生態などをレクチャー的に案内する。
Z482	シャボ	<a href="#">職場体験学習(動物飼育)</a>	地域の職場で仕事を実際に体験することにより、働くことの意義を考え、自己の生き方、今後の進路を考えるきっかけをつくる。飼育管理一般を実習。
Z483	シャボ	<a href="#">夏休み一日飼育体験</a>	夏休み期間の平日、飼育体験という形で飼育係と一緒に行動し、飼育係の仕事を経験しながら、動物とのふれあいをとり入れ、動物の生態を理解する。
Z491	熱川	<a href="#">ゾウガメとあそぼう</a>	大きくてもおとなしいアルダブラゾウガメに乗ったり、並んで写真を撮り、子供達に思い出を作らせる。
Z492	熱川	<a href="#">ワニのタッチング</a>	幼、小、中学生程度を対象にワニとスキンシップすることによって動物に対する親しみ、親近感を覚えさせ、ただワニを恐れるというような拒否反応を低減させる。

Z501	日本平	<a href="#">幼児動物教室</a>	幼稚園・保育園の年長児を対象としたプログラム。園単位で受け入れ、年間約100回、3000人を対象に実施。
Z502	日本平	<a href="#">Zooスポットガイド(フラミンゴ)</a>	毎月第3日曜日に、園内の動物1種類にスポットを当てて、飼育職員によりその動物の生態や行動、餌、裏話などをパネルやビデオ、ガイド冊子を用いて説明をする。また、動物によってはタッチングや餌やり、獣舎内見学、抜け落ちた羽根等のプレゼントも実施。(来園者の参加、体験を重視したスタイル)
Z503	日本平	<a href="#">わくわくアニマルガイド(トラ班)</a>	ボランティアによる展示動物の解説。トラの他にオランウータン、ゾウ、小型サル、レッサーパンダ、ペンギンの6班があり、毎月1回の活動を実施。
Z511	浜松	<a href="#">動物ふれあい教室</a>	動物園内のふれあい広場において、ウサギ、モルモットなど小動物を利用し、小学校・幼稚園・保育園等の団体を対象として情操教育の一環として開催している。
Z512	浜松	<a href="#">動物園ウラ側探検</a>	11月から3月までの第2、第3日曜日の午後から、一般来園者を対象に動物園のウラ側(猛獣舎、動物病院、調理棟、污水处理場)を説明する。
Z513	浜松	<a href="#">ポニー乗馬体験</a>	毎週土日祝の午後から1時間程実施している。入園者(子供で25kg以下)を対象にシットランドポニー2頭を使って乗馬体験をさせる。
Z521	豊橋	<a href="#">飼育体験学習</a>	なかよし牧場において、飼育係員と共に給餌や獣舎の清掃など飼育管理作業を行う。
Z522	豊橋	<a href="#">動物ワンポイントガイド(極地ペンギンの例)</a>	飼育係員が自分の担当動物について解説し、質問に答える。
Z523	豊橋	<a href="#">動物園サマースクール</a>	毎年テーマ(ex.頭、肢、毛、食物等)に沿って、様々な動物を実際に観察し、考察した結果を発表する。
Z531	東山	<a href="#">サマースクール</a>	「動物と友達になろう」「一日飼育係になろう」をテーマに小学生を学年別に公募し、動物のふれあい、飼育体験を通し、動物愛護精神を養い、動物の知識及び動物園の役割等の理解を深める場を提供する。
Z532	東山	<a href="#">〇〇動物にエサをあげよう</a>	アシカ、キリン、インドサイなどの大型動物に来園者が直接エサを与え、動物の愛護、理解を深める。
Z533	東山	<a href="#">アニマルトーク</a>	飼育係員が担当動物の獣舎前で動物の特性などを解説し、来園者との会話により、動物知識の普及、動物愛護、動物園の動物についての理解を深める場を提供する。
Z541	モンキ	<a href="#">みどりの日・特別ガイドツアー</a>	みどりの日やアースデーの由来や取り組みを紹介しながら生きた実物のサルを見て回るガイドツアー
Z542	モンキ	<a href="#">モンキー〇×クイズ</a>	サルとサルの生息環境をテーマにした問題を出問し、〇×形式で答えてもらうもの
Z543	モンキ	<a href="#">レジェンド・オブ・ハヌマン</a>	インドで古くから伝わるハヌマン伝説(ハヌマンランゲールという種のサルにまつわる昔話)を手作り紙芝居を作成し上演。
Z561	岡崎動	<a href="#">動物への餌やり</a>	象、鹿、山羊、猿、水鳥、リスへの来園者による餌やり
Z562	岡崎動	<a href="#">動物ふれあい</a>	モルモットによる動物ふれあいコーナー
Z563	岡崎動	<a href="#">動物園職場体験学習</a>	岡崎市立中の生徒を数名動物園の飼育体験させる。
A291	三津	<a href="#">ドルフィンコンタクト</a>	イルカに関する簡単なレクチャーの後、バンドウイルカに直接触れてもらう
A292	三津	<a href="#">飼育体験ツアー</a>	館内見学と動物への給餌、サインによる動物の各種動作の実施
A293	三津	<a href="#">ふじのくにゆうゆうクラブ「水族館の飼育体験」</a>	県教委と(財)静岡県生涯学習振興財団の主催する316の一般講座の1つとして委託された講座(添付資料参照)。講座名は「飼育係体験」だったが、「水族館で学ぶ生物学」を目指した。飼育生物とふれあう機会ももうけ、水生生物について学習してもらった。

A311	下田	<a href="#">夏休み体験学習</a>	夏休み期間中、下田市および近隣の6中学校の生徒を対象に、水族館の役割、生物の事、生物を取り巻く環境などを学習し、飼育の作業、動物とのふれあいを体験する
A312	下田	<a href="#">ドルフィンコンタクト (イルカとのふれあいプログラム)</a>	イルカの情報を提供する手段として解説板、係員のガイド、ショー等の見学型展示方法があるが、イルカを飼育している入り江に見学者が入り、イルカとふれあえるドルフィンビーチ、イルカと泳ぐドルフィンスイミング、イルカに給餌するドルフィンフィーディングなどの参加型、体験型プログラムを実施している。いずれも係員が付いて解説、サポートを行っている。
A313	下田	<a href="#">ペンギンのガイド給餌</a>	フンボルトペンギン、オウサマペンギン、に餌を与えながら、係員がそれぞれの分布、生態、形態、繁殖、種の保存への取り組み等について解説し、館内の散歩、記念撮影などを実施している。
A321	アンデ	<a href="#">カメタッチ</a>	クサガメ、イシガメなどなじみの深いカメや、日本には生息しないリクガメなどに触れていただき、さまざまな種類がいて生活環境が違うということなどを理解していただく。
A331	東海大	<a href="#">小5サマースクール「もっと魚を知ろう」</a>	記載なし
A332	東海大	<a href="#">小6サマースクール「三保の海を調べる」</a>	当館と本学所有調査船を利用し、駿河湾とそこにすむ生物について知る。海の調べかたについても学ぶ。
A333	東海大	<a href="#">海と魚の探求セミナー</a>	海に出かけたり、水族館などで、日ごろ何気なく見ている海の生き物たちですが、この海の生き物たちの生活を水族館の仕事体験しながらいろいろな角度から見て知ってもらおうというものです。今回は、特に魚の産卵やウニの発生などを観察して、普段あまり見る機会の少ない生き物の誕生についてテーマとしました。
A381	竹島	<a href="#">アカウミガメのレクチャー</a>	アカウミガメの生態
A391	南知多	<a href="#">イルカ教室</a>	イルカの知識についてより深く学んでもらい、身近な動物に感じてもらう。
A392	南知多	<a href="#">ドルフィンカレッジ</a>	1泊2日で鯨類のくらしを紹介する。大学の研究者、当園の職員が講師になり、講義が中心。
A393	南知多	<a href="#">サマースクール</a>	小中学生を対象に水族館内でお泊り体験の出来るイベント。内容は飼育体験や夜の水族館ウォッチング等。今回は新たに魚の解剖実習を加えた。
A401	碧南	<a href="#">校外学習(水族館・科学館学習)</a>	毎年市内の小学生を対象に、2年生は生活科の関連で水族館の見学を、4年生は海の科学館を中心とした社会科学習を、6年生は水族館の作業スペースの見学を含む理科の学習をしている。4年生の学習ではバスによる現地見学(郷土の学習)も実施している。
A402	碧南	<a href="#">サマースクール・工作教室</a>	夏休み恒例「サマースクール」は、碧南の生き物を採集し、生き物の性質を調べることを通して、様々な生き物のつながりを学ぶばかりでなく、調査方法等を身につけ自然を見つめる心を育てます。工作教室は、もの作りを通して、楽しさの中でももの作りの仕組みを知り、道具の使い方を体得することができます。
A403	碧南	<a href="#">自然観察会</a>	記載なし
A411	名港水	<a href="#">ペンギンコミュニケーション</a>	ペンギンへの給餌時に、ペンギンについての解説を給餌中の飼育係が行い、さらに、観客からの質問に答える。プログラムの進行と観客への対応はアクアフレンド(当館コンパニオン)が行う。
A412	名港水	<a href="#">名古屋港水族館ウィンタースクール99</a>	海洋生物の観察や体験的な活動を通じて、生物と自然環境に興味を持つきっかけを参加者に与えることを目的としている。身近な海岸生物をテーマとして取り上げ、工作やアクティビティを通して生物とその生息環境について理解を深めてもらう。
A413	名港水	<a href="#">名古屋港水族館サマースクール2000「見てみよう! 港の生き物のくらし」</a>	海洋生物の観察を通して、生物と自然環境に興味を持つきっかけを参加者に与えることを目的とし、名古屋港の付着生物をテーマとして取り上げ、期間を空けた2回の活動で身近な海洋生物の生活史と生息環境について理解を深めてもらう。



A421	琵琶湖	<a href="#">投網体験してみよう</a>	投網で魚をとるしくみを知り、実際に魚を捕ることで、琵琶湖の水、魚などについて考えるきっかけにする。
A422	琵琶湖	<a href="#">びわ湖の魚は何を食べているか</a>	琵琶湖で魚の採集(釣り)をし、その後解剖し、胃の内容物から琵琶湖の生態系について考えるきっかけにする。
A423	琵琶湖	<a href="#">トンネル水槽潜水通話交流</a>	水量460t水深6mの水槽に飼育員が潜水し、展示室側の展示交流員と通話装置を使い、魚の生態、水圧の実験、水槽内の掃除の方法等を紹介する。また、来館者の質問や疑問にもダイバーが直接答える。
A424	琵琶湖	<a href="#">プランクトンの観察</a>	プランクトンについて話・採集の方法等。湖岸へ出てネットを使い採集。観察。まとめ。

#### ▼近畿地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z571	御在所	<a href="#">アカトンボ教室</a>	夏休みになると、山の上へやって来る子供たちとアカトンボ(アキアカネ)の観察会を実施。その時、羽にマークをつけて(マーキング)放します。10~11月にふる里へ帰りますが、秋にこのマーキングのトンボを探す。
Z601	南紀	<a href="#">アワーズキャンパス</a>	自然や動物をテーマに動物のお話やふれあいを通じて、楽しみながら動物たちのことを勉強する会。定員50名。
Z602	南紀	<a href="#">動物なんでも相談</a>	動物相談、ご質問をお客様より募集し、後日、お手紙にてお返事を送付する。
Z603	南紀	<a href="#">動物計量ウォーキングサファリツアー</a>	動物の計量に関する動物クイズを出題する。楽しく学んでいただける催物。
Z631	天王寺	<a href="#">サマースクール</a>	小学生4,5,6年生対象。1回のプログラムは2日間で、3回実施。募集人数180名。当園のボランティアがリーダー役となり引率。指導は当園飼育係が行う。
Z632	天王寺	<a href="#">動物についての講話</a>	動物舎(動物)前にて飼育係員が動物の説明を行う。
Z633	天王寺	<a href="#">動物君たちの一日</a>	飼育係員が自分の担当動物の一日をビデオ放映によりわかりやすく説明する。
Z671	宝塚	<a href="#">学習プログラム</a>	園近郊の小学校を対象とし、メニューは動物ふれあいとクイズラリーの2つより選択してもらう
Z691	姫路動	<a href="#">ナイト・ズー</a>	親子による動物観察
Z692	姫路動	<a href="#">ウインタースクール</a>	飼育実習
Z693	姫路動	<a href="#">サマースクール</a>	飼育実習
Z711	淡路	<a href="#">サマースクール</a>	動物飼育体験。ペットボトルを使った釣り鉢づくり。挿し木づくり。
A431	宮津	<a href="#">水族館ナイトキャンプ</a>	館内でのお泊り会。スタッフとの会話や魚探しゲームなど。
A432	宮津	<a href="#">サマースクール(地引き網)</a>	小学生対象(保護者込み)40名。水族館の近くの浜で地引き網を行い、捕獲した水族をスタッフといっしょに調べる。
A441	鳥羽	<a href="#">少年海洋教室</a>	記載なし
A442	鳥羽	<a href="#">バックヤードツアー</a>	普段は入ることができない水族館の裏側を飼育係が特別に案内する。
A443	鳥羽	<a href="#">マイクロ体験スペシャル</a>	記載なし
A451	志摩	<a href="#">磯の生物観察</a>	志摩半島の磯に生息する生物たちを手にとりて観察し、その生物の生態や生活の様子を学んで、生命の不思議や環境保護の重要性を知ってもらう。
A452	志摩	<a href="#">ペンギンタッチ</a>	ペンギンにふれられてもらって、その生態を知ってもらったり、野生動物に親しみを感じてもらおう。
A453	志摩	<a href="#">水族館裏方探検</a>	普段見られない水族館の飼育設備や餌の状況、繁殖施設などを案内して、水族館の役割や飼育状況を知ってもらう。

A461	二見	1日飼育係	動物・魚類の調餌、裏側の見学と説明を行い、飼育係の普段行っている事のできるだけ近い形で体験。
A462	二見	夜の水族館	昼間とは違う生物の様子を観察。海獣類・魚類に関するクイズを出題し、生き物について学ぶ。
A463	二見	セイウチコミックショー ・あっかんペーアザラシタイム	お客様がセイウチやミナミゾウアザラシに触れ、動物の体温を感じることが出来る。
A471	白浜	子ども体験教室	海洋の生物を磯と水族館で観察する。
A472	白浜	京都大学水族館特別公開	実習船に乗って海洋生物を採集・観察し、水族館の非公開部分を見学して餌やりなどを体験する。
A491	串本	環境教育講話	串本町には町立の小学校が10校ある。その全ての生徒がこの講話を一度は聞けるように、生徒数の少ない9校は3校ずつにわけて毎年4～6年生合同で3校で講話をきき、生徒数の多い1つの小学校は毎年6年生だけが受講する。
A492	串本	第27回マリンスクール	海の生き物と直に接し、その生態に触れることによって海への理解と興味を深めるとともに、野営による共同生活を通して、生徒の自主性及び協調性をつちかう。
A493	串本	飼育体験	水族館において水族飼育の実際を体験してもらい。具体的には投餌が中心となる。また合わせて飼育係員による解説にて水族館の諸施設、展示物の見学を行なう。
A501	和自博	夜の水族館をのぞいてみよう	普段見ることのない夜の水槽の魚たちの観察や博物館の裏側、餌やり体験を通して、博物館の仕事内容や夜と昼の生物達の違いを学ぶ。
A502	和自博	恐竜時代の化石を探してみよう	実際に野外で地層の観察や化石の採集を行い、室内では採集してきた化石のクリーニングや整理作業を行う。そうすることによって、地層や化石に関する理解を深めさせるのがねらいである。
A503	和自博	春の磯の観察会	春の大潮の干潮時、潮間帯の生物を観察することにより、生物の種の多様性の理解を深める。
A511	海遊館	おとまりスクール	参加者は、寝袋を持参し館内観客通路に宿泊する。
A512	海遊館	海遊館・生き物解説～しいく係員に会える日	飼育係員による生き物解説
A513	海遊館	夏休み子ども・海遊館探検隊	参加者は生きもののクイズがのっている「たんけんノート」を手に館内を自由に見学する。
A521	須磨	スルメイカの解剖	(生)スルメイカを使い、体のつくりや諸器官の構造と生活との関わりについて理解を深めてもらう。消化器の取り出しを中心に内臓等を詳細に観察してもらう。
A522	須磨	水辺生物の名前を調べる会	夏休みの理科研究や理科作品などの宿題を支援するめ採集した生物の標本の同定会を行う。
A523	須磨	干潟の生物観察会	神戸市近郊の貴重な干潟、加古川河口での生物観察会
A531	城崎	学校遠足用教育プログラム(正式名称なし)	学校遠足で来館する小学生たちに水族館を通していきものたちについて紹介するとともに命の大切さや自然の保護等も理解してもらうプログラム
A532	城崎	夜の水族館探検	昼とは違った生きものたちの行動を紹介する事を目的としたプログラム
A533	城崎	海の動物たちと遊ぼう	水族館の生きものたちを通しての触れあい、ネイチャーゲームを通しての自然とのかかわりを体験するプログラム
A541	姫路水	サマースクール	A班(28・30日)、B班(29・30日)。1日目は飼育係体験。ウミガメの体重測定など。2日目は野外で磯の観察会を行なった。
A542	姫路水	淡水亀産卵観察会	早朝7:00～9:00に、イシガメやクサガメ、アカミミガメが上陸して土に穴を掘り、産卵する様子を観察してもらう。

A543	姫路水	<a href="#">タートルバンク</a>	クサガメの卵をふ化容器に入れて5個づつ貸し出し、ふ化までの様子を観察してもらう。ふ化後は飼育を体験してもらう。秋には子ガメの冬の飼い方について指導する。
------	-----	-------------------------	--

#### ▼中国地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z721	池田	<a href="#">ハードウィークにちなんだ話、パネル展示</a>	鳥のくちばし、足の形から鳥の種類を当てるクイズ形式の話と、それを観覧者が自由に行なえるパネル展示。
Z722	池田	<a href="#">サマースクール</a>	1日飼育体験
Z723	池田	<a href="#">飼育体験教室</a>	飼育担当者とともに一日の飼育管理作業を体験する。
Z781	安佐	<a href="#">動物アドベンチャーゲーム</a>	園内に設定されたチェックポイントを動物園に関するクイズを解きながら決められた時間にゴールして点数を競うゲーム。楽しみながら主催者の設定したテーマで、参加者を気付きや発見に導く。
Z782	安佐	<a href="#">ヤギやヒツジの食べ物さがし</a>	数種の餌を園児達の前で与え、食べるかどうかをクイズ形式で聞きながら、肉食獣や草食獣など動物の多様性に気づかせる。そして、その中で子ども達にさわらせたり、エサを与えたりしながら、動物と遊びたいという自然な欲求を満たし、動物愛護、正しい観察眼などを養い、生命を大切にす豊かな人間性を育むことを目的とする。
Z783	安佐	<a href="#">骨格標本を用いたレクチャー「ライオン・シマウマ・オオサンショウウオ」</a>	主に骨格標本を使用して、そこから知ることのできる脊椎動物達の体のしくみや進化を紹介。
Z791	福山	<a href="#">一日動物教室</a>	全国動物園水族館月間(7月20日～8月19日)行事の一環として、児童に直接動物飼育の機会を与え、動物への理解と親しみを持たせ、動物愛護精神の普及啓発を図り、人間と動物の共存・世界環境の保護に取り組む。
Z792	福山	<a href="#">動物わくわくエサやり体験</a>	来園客にエサやり体験をしていただく。
Z793	福山	<a href="#">動物愛護週間行事</a>	動物愛護精神の普及・啓発を図り、生命尊重・友愛及び平和の情操を養う。
Z801	徳山	<a href="#">どうぶつふれあい</a>	ウサギ、モルモット、ヒヨコ、ヤギとのふれあい。抱き方や少々の動物解説。
Z802	徳山	<a href="#">チャレンジ体験学習</a>	動物についてテーマを持って研究している中学生の体験学習の受け入れ
Z803	徳山	<a href="#">実習(獣医学科学生)</a>	獣医学科の学生を実習生として受け入れる
A551	しまね	<a href="#">サマースクール自分でつくる小さな水族館</a>	水槽作成を体験し水槽の仕組みを知ってもらうと同時に生き物についても学習する。
A552	しまね	<a href="#">サマースクールウミホタル採集と発行実験</a>	身近にいる不思議な生物(ウミホタル)を採集し、生物の説明、発行実験を体験してもらう。又、良き物をとおして自然環境の大切さを学習する。
A553	しまね	<a href="#">サマールクール夜のアクアスを探検しよう</a>	伝統の消えた夜の水族館で昼間とは違った生物の生態を観察してもらい、職員による生物及び水族館の仕組みの解説により、水族館をより深く理解してもらう。又、クイズや物語の朗読で夜を楽しんでもらう。
A561	玉野	<a href="#">ウミガメふれあいデー</a>	7月～10月の第2・4土曜日に実施。ウミガメプール清掃後に小学生以下の入館者(希望者のみ)にプール内に入ってウミガメに触る体験プログラム

#### ▼四国地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z751	とべ	<a href="#">保育士対象動物教室</a>	愛媛県内の保育士を対象に動物教室を実施。
Z752	とべ	<a href="#">高校生対象飼育実習</a>	園内の高校生を対象に、園内の飼育管理などを通して、飼育の正しい知識と動物愛護、自然保護について知識を深めてもらう。
Z753	とべ	<a href="#">社会人対象飼育実習</a>	社会人を対象として、園内の動物飼育管理などを通して、飼育の正しい知識と動物愛護、自然保護について知識を深めてもらう。

Z754	とべ	<a href="#">サマースクール小学生の部</a>	小学4・5・6年生を対象に、動物飼育管理などを通して、みんな仲良く動物たちと親しみながら動物の飼育方法や、命の大切さ等を楽しく学んでもらう。
Z755	とべ	<a href="#">親子サマースクール</a>	幼稚園、保育園児及び小学1・2・3年生の子どもと、その保護者を対象に小動物を使って、動物との接し方や飼育方法、命の大切さを親子で学んでもらう。
Z761	高知	<a href="#">サマースクール</a>	小学4・5・6年生対象。1日に16人受け入れ。参加費無料。往復ハガキで申し込み抽選。
Z762	高知	<a href="#">カブトムシの飼い方教室</a>	小学生以下対象。カブトムシの幼虫からの飼い方を教え、教室終了後幼虫プレゼント
Z763	高知	<a href="#">団体対象ふれあい広場利用</a>	遠足等で来園する幼稚園や小学校などの団体を対象に引率の先生の事前実習を条件に、当日ふれあい広場を利用してもらう。
Z771	のいち	<a href="#">ふれあい教室</a>	ウサギ、モルモットに関する教室
Z772	のいち	<a href="#">特別ビデオ上映</a>	動物公園で制作したオリジナルビデオを上映します。ビデオは予約を受けた県内小学校のみ貸出しを実施。
Z773	のいち	<a href="#">サマースクール</a>	動物に親しみ、動物園の役割を知ってもらおうと小学4～6年生を対象に(各保護者1名)、動物のエサやりや、清掃などの親子飼育体験を行いました。
A591	足摺	<a href="#">「魚の観察」海洋水槽の近所付き合 い (三崎小学校環境教育プログラム)</a>	海洋水槽には大小、多種、多様な魚たちが暮らしている。同じ水槽で暮らしている以上、そこには様々な魚同士の関係が生じる。同種あるいは多種で仲良く泳いだり、時にケンカをしたり、、、そんな魚たちの付き合いを覗いてみよう。
A592	足摺	<a href="#">海そうおしばを作ろう (三崎小学校環境教育プログラム)</a>	海藻は緑、褐、紅藻と色とりどり。水中という環境の中ではその形も陸上の植物とはかけ離れたものが多い。そんな、海藻の色、形に、フィールド観察とおしば作りを通して触れてみる。
A593	足摺	<a href="#">潮だまりの観察(三崎小学校教育プ ログラム)</a>	潮干帯は潮の干満により、海中になったり、空気中にさらされたりする特殊な環境となっている。そんな環境に住む動物達はまた、そんな環境で暮らすために、様々な生き残り戦略を持っている。そして、潮干帯は生物の密度の非常に高い場所でもある。潮干帯の生物の多様さから、海の豊かさを感じ、海と陸の接点を見ることで、海と陸のつながりを考えたい。

#### ▼九州・沖縄地方

No.	園館	プログラム名	概要
Z861	久留米	<a href="#">サマースクール</a>	夏休み期間を利用し、飼育体験や実際に動物にふれあうことにより、動物愛護の精神や、命の大切さを学んでもらう。
Z862	久留米	<a href="#">職場体験入学</a>	中学校の進路指導の一つとして、将来の総合的な学習に発展させるための試みとして、飼育職員と同じスケジュールで職場を体験する。
Z863	久留米	<a href="#">移動動物園</a>	鳥や、小動物をもって幼稚園、保育園、小中学校へ出向き、動物とのふれあい活動をさせたり、動物についての楽しいお話をする。
Z871	海中道	<a href="#">動物の森一日飼育員</a>	サマースクールで小学校4・5・6年生を対象に動物飼育の体験学習を行う。
Z872	海中道	<a href="#">動物の森ふれあい指導</a>	予約制で子どもたちに動物との接し方を専門の指導員が指導する。
Z873	海中道	<a href="#">動物の森Zooウォッチング</a>	自由参加のクイズ式の動物テスト
Z891	佐世保	<a href="#">市内3年生体験学習</a>	市内小学校3年生を対象に園内ガイドツアーとタッチング(1部)を行なう体験型のガイドツアーとなっている。動物植物園の正しい役割と、自然環境保護の啓蒙。
Z892	佐世保	<a href="#">「動物まつり」</a>	愛護週間にちなんで動物愛護の啓蒙をおこなう。移動動物園、ガイドツアー、餌やり、タッチング等
Z893	佐世保	<a href="#">動植物サマースクール</a>	小学校高学年を対象に体験学習を行なう。1泊2日、または2日間サマースクールのどちらかで毎年実施。主に、飼育管理を中心に体験学習を実施。

Z901	長崎バ	<a href="#">チャレンジドリーム2000西彼町町立西彼中学校</a>	職場体験、職場訪問
Z902	長崎バ	<a href="#">修旅等への園内案内ガイド</a>	同行案内での動植物の説明及び動物とのふれあい体験を通してより深い理解と併せて自然環境の大切さを説明
Z903	長崎バ	<a href="#">時津町公民館バイオパークサマースクール</a>	動物飼育体験。工作教室。
Z921	九州	<a href="#">小学生生活科体験プログラム</a>	動物園の使命の一つ「社会教育活動の実践」を目的に、小学校1、2年生を対象とした、生活科体験学習を実施。野生動物の生態観察や小動物とのふれあいを通して、動物や自然へのやさしさ、命の大切さを楽しく学ぶプログラム。
Z931	熊本	<a href="#">実習生、職場体験学習の受入れ</a>	中学生、高校生の職場体験学習や大学生の博物館学習、教師の社会体験研修を受入れ、飼育作業の他、園内遊具施設での接客、園内清掃他の施設管理、植物の管理を実習してもらう。
Z932	熊本	<a href="#">ズーガイド・レクチャー</a>	園内動物の案内、バックヤードの案内及び動物についての話
Z933	熊本	<a href="#">動物サマースクール</a>	夏休み期間中、小学生を対象に飼育体験をとおして、野生動物の生態や自然環境の保全について楽しく学んでもらう。
Z941	阿蘇	<a href="#">わんわんピクニック</a>	園内の“ドックラン広場”に、ペットの犬同伴で来場。ゲームやアジリティ等を通して、犬の躰や飼い方、相談等の飼い主同士・飼い主と専属(犬)スタッフとの交流を行う。
Z942	阿蘇	<a href="#">ふれあい動物学習</a>	クマ博士コース(クマの給餌体験・クマ舎お掃除体験・クマの成長過程学習)、ワンワン博士コース(犬の生態学習・しつけ体験・トレーナー体験)、動物博士コース(アライグマの生態学習・ヤマアランの生態学習・ダチョウの生態学習)
Z943	阿蘇	<a href="#">動物レクチャー</a>	場所を移動せず、1ヶ所に集まって動物の話をする。内容は依頼者側の年齢や要望によって変る(担当者が内容決定)。特にきまったマニュアル等はない。
Z951	フェニ	<a href="#">動物園サマースクール</a>	低学年(3班)、高学年(2班)に分かれ、飼育実習や動物ふれあいなどの動物園教室を行う。
Z952	フェニ	<a href="#">移動動物園教室</a>	動物園より遠い地域の県内の小学校を訪問し、飼育実習他の動物園教室を実施。訪れる動物は約20種40点程度。小学校対象。
Z953	フェニ	<a href="#">幼児ならびに小学校児童対象動物園教室</a>	遠足等で来られた幼児ならびに小学生に対して、動物の話等のレクチャーを行う。
Z961	平川	<a href="#">スケッチ大会</a>	動物を題材にした絵を書くことを通して、動物や自然を愛する心を養い豊かな情操をつちかう。
Z962	平川	<a href="#">サマースクール(一日飼育係)</a>	一日飼育係として、実際に動物舎に入って掃除をしたり、エサを作って与えるなど動物の世話をすることにより、動物愛護の精神を養う。
Z963	平川	<a href="#">巣箱づくり教室</a>	のこぎりやかなづちを使用し、親子で作る楽しさを通して動物愛護の精神を養う。対象は小学生とその保護者。
Z981	沖縄こ	<a href="#">サマースクール</a>	動物のエサ作りや給餌、清掃、可愛い動物との触れ合い・木を使用したの木工教室・つりぼり等ドキドキワクワクの楽しい体験学習をする。
Z982	沖縄こ	<a href="#">職場体験学習</a>	記載なし
Z983	沖縄こ	<a href="#">動物愛護週間</a>	記載なし
A631	海中水	<a href="#">移動水族館教室</a>	山間部などの小学校や養護学校を対象として展示生物、解説装置などを体育館で展示し、海の生物に対する理解を深めることを目的としている。
A632	海中水	<a href="#">マリンサイエンスラボ</a>	解説員による水の生物をテーマにしたサイエンスショー。3ヶ月毎にテーマを変えて実施。

A633	海中水	<u>遠隔授業</u>	TV電話を使用して遠隔地の学校に生の生物の映像を見せながら解説し、水の生物のことを知ってもらうプログラム。
A641	大分	<u>タッチプール館外展示</u>	磯の生き物に触れるタッチプールを、要望に応じて館外出展して参加者に触れさせ開設する。
A642	大分	<u>夏休み子供水族館教室</u>	職場の指導で、館内研修と餌づくり、餌やりを行なう。
A651	天草	<u>イルカのショー体験コース</u>	イルカのショー種目の中からお客様に2種目選んでいただきイルカショーマンの体験をしていただき、イルカについての質疑応答。
A652	天草	<u>イルカとのふれあいタイム</u>	バンドウイルカを来客前に呼び、個体の説明、イルカについての説明。タッパやボディータッチ等
A653	天草	<u>イルカとふれあいスイミング</u>	バンドウイルカの背びれにつかまり、一緒にスイム
A661	鹿児島	<u>中学生のための探検・発見・水族館</u>	水族館へ足を運ぶことの少ない中学生を対象に公募し、実施した。狙いは、かごしま水族館のことをより知ってもらいながら、併せて、自然環境とそこに住む生きものを理解してもらうことだった。
A662	鹿児島	<u>水槽のしくみを学ぶバックヤード見学</u>	水槽のしくみについて解説したあと、実際に黒潮大水槽(1500m3)を展示水槽→キーパーヤード→濾過槽→貯水槽の順に案内しながら説明する。
A663	鹿児島	<u>ウインタースクール「知ってる？海藻のパワー！ ところてん作りに挑戦しよう」</u>	●海藻の話。①海藻には様々な色があること(生ワカメを湯につけ緑に変色するところを見せる。「刺身ワカメ」は本来の色ではないことを話す)。②海藻の成分は様々な商品に使われている(会場の後方に海藻を使ったヨウカン、カップメン、クレープ、おしゃぶりコンブ、寒天などを展示)。●寒天の話。①寒天とゼラチンの違い。②実際にアクサを煮てところてんを作る。試食。
A671	沖縄水	<u>学生による聞き取り調査対応</u>	学校から依頼があった場合にのみ実施。学生(主に中・高校生)を対象に、生徒が疑問に思っているテーマについて飼育員が講習を行う。
A672	沖縄水	<u>体験学習</u>	学校から依頼があった場合にのみ実施。学校(主に中・高校生)を対象に、一日飼育体験として魚類・海獣保育業務を半日ずつ体験させる。
A673	沖縄水	<u>バックヤードツアー</u>	学校から依頼があった場合にのみ実施。学生(小～大学生)を対象に展示槽及びバックヤードの解説を行う。

## 資料編 4. ヒアリング調査結果サンプル 1

### 富山市ファミリーパーク

### 『富山大学教育学部教育教員養成過程学生実習』

ヒアリング実施日 2001. 2. 21

#### プログラム概要

幼児教育に関する授業科目のうち、保育内容に関する科目である「子どもと環境とのかかわり」を受講する学生に対する実習。富山大学との連携で年1回、定期的を実施。

期間・・・週1回ずつ3日間 11:00～14:30(うち1時間は昼休み)

参加人数・・・20～30人

参加方法・・・事前申し込み

実施者人数・・・教育担当係員4名、飼育係員3名

#### プログラム進行

**1日目** ……オリエンテーション、実習1

##### ■オリエンテーション(11:00～11:20)

レクチャーホールで実施。自己紹介、日程・実習内容の説明。

##### ■実習1「見えない環境Ⅰ・マイクロな自然」

園内の4カ所(正面入口付近の植え込み、とんぼの沢畦、芝生広場、ひみつの森林床)で、表土から深さ5cmほど、重さ1kgの土壌を採取。ホールで、その土塊に含まれる生物種を同定、レポートする。(p hあり)

全員で園内を巡回、植生や動物の分布等環境特性についてのガイドをしつつ、各ポイントで土を採取。班別に採取場所を担当、ひとりにつきスコップ一杯ほどの表土と植物をともに採取。採取完了後、ホールに戻り昼食。午後、表土に含まれる植物や小動物の同定作業をし、同定できたものを発表、環境の違いとそこに住む生き物の違いを検証する。



## 2日目 ……実習2

### ■実習2「見えない環境Ⅱ・ファミリーパーク音源調査」

園内4カ所（水禽池、とんぼの沢、芝生広場、ひみつの森）で5分間、ラジカセで自然の音だけを録音、音源を地図に定位する。全員で園路を巡回、班別に録音場所を担当。午後、ホールで、何の音がどこから聞こえてくるかを同定、各ポイントでの音環境をレポート。非生物環境と生物環境、およびそれらのダイナミックな系について環境分野のまとめを行い、環境の違いと、そこに生きる生物との関連をとらえる。

## 3日目 ……実習3(11:00~12:00)、実習4(13:00~14:00)

### ■実習3「身近な野生動物」

園内で採取あるいは園内に生息している身近な野生生物（カナヘビ、カエル、ミミズ、昆虫、クサガメ、ドジョウ、サワガニ等）を観察・触察することによって、人間で近い環境で生きている野生生物の生態を知り、かつ接し方を考える。子ども動物園で概要説明の後、自由触察実習を行い、その後、解説をして指導者つきの触察実習。手洗いの後、ホールに移動して、実習前と後についての質問用紙に書き込むことで自分なりのまとめをする。

実習前に関する書き込み事項・・・見たことのある動物、触ったことのある動物、それぞれの動物に対するイメージ。

実習後に関する書き込み事項・・・自由観察で触れた動物、指導観察で触れた動物、触れた理由、触れなかった理由。

### ■実習4「動物飼育体験」

教育現場で飼育されることの多いウサギの飼育体験。2人に1ケージ（1頭）のウサギを渡し、飼育職員の指導のもと、取り扱いや掃除、給餌についての技術を体験。子ども動物園で実施。実習とともに観察記録のワークシートを作成。項目は、品種、個体番号、生年月日、体重、耳長、後趾長、尾長、健康状態（耳の汚





れ、鼻水の有無、歯の伸び、毛の状態や肥満度、爪の伸び、傷の有無、心音)、残餌量計測による1日の採食量の割り出し、1日の飲水量の割り出し、糞の状態(色、形、臭い、数量)、尿の状態(色、臭い、量)。さらにウサギの世話に関する解説(繁殖、病気、雌雄判別等)。手洗い後、ホールに移動して終了。

## ポイント

**身近な自然を利用する方法の種をまくのが目的** 知識を植えつけるのではなく、自己と自然環境との関わりを認識することで視野を広げ、教員として現場に出たときに必要なインタープリターとしての認識を体感してもらうことを目的とする。たとえば土壌生物の同定自体より、生物の環境における多様性に気づき、目を向ける姿勢を開発することを重視。土や音を利用することは保育園にも学校にもあるという意味で、自分の体験を、子どもに何かを与えるときの方法や手段の手がかりにすることができる。やり方の種をまくことを目的として実施。教育効果は非常に高い。

**効果の事後追跡が可能** 実習なので事後にレポートの作成があり、効果等の確認や追跡が容易。実施内容を検討し、次回に反映することができる。

**連携方法がネック** 大学との連携は、当園の場合、外部のグループ内に富山大学教育学部長がいたという人的つながりが発端。新たな実施を考える場合、大学との連携をどういう方法で開始するかがネック。

**総合学習への対応も可能** 教員養成過程の学生すべてに実施可能で、関連の大学への周知や連携がとれれば広く実施することもできるが、当園の現状の人員体制では他の活動との調整が困難で、現在のところ富山大学のみに対応となっている。だが、このプログラムは小中学校に取り入れられる総合学習にも十分に応用できる。今後、ニーズが増加すると思われ、広げやすい状況にあると考えられる。

**園内にあるものが材料** 下調査に時間がかかり、目の行き届く指導のために実施人数も多いが(1人が指導、3人が補助) 人的負担を別にすれば、園内に存在するもので全て対応が可能である。また、アイデア次第で、さまざまなプログラムが開発でき、切り口は無数にあると考えられる。動物に限らず動物園のスペース自体を教材に使うという発想は斬新で新しい視点といってよい。ただし、そのアイデアの出せる人材の存在が大きな条件。かつ、プログラムのバリエーションを広げるには、さまざまな分野における知識を持つ人材の存在も必要。

ちなみに、当該園では毎年、プログラムの内容を新たに作成している。過去に実施されたバリエーションには以下のようなものがある。

- ・「宝物さがし」 . . . 園内を抽象的な 10 項目（きれいなもの、白いもの、気になったもの等）を探しながら歩き、五感全体を使う。
- ・「住人ウオッチング」 . . . 事前にしかけておいた捕獲罠（シャーマントラップ等）を点検する。
- ・「食べ物さがし」 . . . 小動物について、その動物のエサとして与えるものを園内の野生のものから 3 種類と用意した動物園のエサから 3 種類、選んで給餌観察する。
- ・「除草」 . . . 草刈りを行い、2 週間後の変化を観察。
- ・「でんでん虫を飼う」 . . . 1人1個体のでんでん虫を渡し、1週間飼育して観察。

## **工夫と発展**

**アウトソーシング** アイディアおよび多岐にわたる分野における人材がない場合、コーディネートを外注することを考えるのも方法。インタープリターや子ども対象の活動をするナチュラリストへの依頼等が可能だと考えられる。

**応用範囲の拡大** このプログラムは、すでに現場にいる教員の研修、学芸員実習、中・高生の校外授業としても対応が可能。学校サイドとの連携方法としては、ガイド等における学校関係者とのつきあいや他グループでの出会いをきっかけにして発展させるのが現在のところ確実な方法のようである。開始以降は教員の異動等に伴う口コミ効果が期待できるが、人員体制によって対応できる学校数が制限される点が今後の課題だと考えられる。

**学校との連携** 当該園では、プログラム作成に関して大学側は園におまかせの状況。指導要領との整合性のためにも、実習内容についても学校サイドとの連携がとれれば、さらなる発展が期待できるであろう。

## 江ノ島水族館 『イルカのアニマルセラピーの世界』

ヒアリング実施日 2000. 11. 11

### プログラム概要

実物大模型や身体の一部レプリカ（手ざわり等を忠実に再現）解説板を用いて、鯨類（特にイルカ類）について解説、イルカへの接し方の説明の後、イルカ飼育プール内の特設ステージ（水深 50cm）に入りバンドウイルカとふれ合い体験をする。

期間・・・・・・・・・・非定期的に実施。1回1時間半

参加者数・・・・・・・・小学生以上。12名以内

参加方法・・・・・・・・事前申し込み

実施者人数・・飼育係員または獣医師 5名

### プログラム進行

#### 1 鯨類基礎知識解説

特設ステージに隣接するレクチャールームにて、鯨類、特にイルカに関するレクチャー。実物標本（ヒゲクジラのヒゲやハクジラの歯、骨等）や、触れた感触も実物に似ている各部の実物大模型、各種パネル等を使用し、分類や形態、生態に関する解説を行う。解説者は1名。



#### 2 イルカ対処法解説

イルカへの触れ方、触れてはいけない部位、その他注意点等を説明。

#### 3 準備

胴付長ぐつ、および救命胴衣の着用、手の消毒

#### 4 イルカふれ合い体験

水深 50cm に設営された特設ステージに入り、イルカを呼び静止させ



て触れる。3頭のイルカに1頭あたり1人の実施者が付き、参加者も1頭に対して一人が入水し実施者の解説を受けながらイルカに触れる。解説は主に細部の形態や機能についてだが、実施者が参加者に対して1対1で対応するため、参加者の興味に応じて臨機応変な対応が可能である。



## ポイント

**知識のみでなく感性を大切に** 鯨類に関する知識の解説のみでなく、間近で観察し触れることで人間との共通点を認識したり、血の通った動物であることを実感することが出来る。評価は難しいが、ある程度の癒しの効果も期待できる。



**活性化効果は大きい** 参加人数が限られてしまうが、特設ステージが一般観覧者通路に面しているため、活性化効果は期待できる。プログラムに参加していない来館者も、参加者とイルカと触れ合っている場面を見ているだけでも楽しむことができ、また館内で様々な活動が行われている印象を与える。

**イルカの負担を考慮する必要あり** 現状では試行段階であるが、定期的な実施可能になれば使用するイルカの負担を考え、触れ合いの際のケアや1頭あたりの実施時間に制限を設ける等の配慮が必要である。

**労働力と困難度は高い** 実施者はイルカの頭数 + 1名は最低限必要であり、参加者人数に対する労働力はかなり大きいといえる。しかしその分、参加者に対してこまやかな対応ができるため、参加者の満足度は高いであろう。イルカのトレーニングは通常のハズバンダリートレーニングの範囲内で十分対応可能であり導入における困難はないが、参加者に対する注意事項の徹底や、危険管理の面での困難度は高い。

**参加費徴収が必要** 特設ステージやレクチャールームの建設、模型の制作にかなりの経費が必要となる。現在は無料で実施しているが、サービスの質の維持のためにも、1000

円程度の参加費を徴収することは可能。

## **工夫と発展**

**セラピストの導入** 実施者は動物の専門家ではあるが人間の専門家ではない。「セラピー」として発展させるためには専門のセラピストとの協力が不可欠である。

**設備の応用** 江ノ島水族館では当プログラムのための特設ステージおよびレクチャールームを整備したが、プログラムの内容を多少変更することで特別の設備がなくとも導入することができる。アンケート調査では、ダイビングスーツや水着着用によるイルカプール内でのふれあい体験や、陸上からの触れ合い等の報告もあり、それらを参考とし現行の設備の応用で実施できる可能性もある。

**対象の拡大** 年齢層ごとに募集し、各年齢層に応じてプログラムにバリエーションを持たせることも出来る。また、専門のセラピストとの協力により精神疾患を持つ患者（自閉症児等）を対象とした集中的なプログラムに発展させることも考えられる。

資料編 5. アンケート結果サンプル 1

動物園・水族館で実施された実例プログラム集			
プログラム名	骨格標本を用いたレクチャー「ライオン・シマウマ・オオサンショウウオ脊椎動物みな仲間」		
実施園館	広島市安佐動物公園	プログラムNo.	Z783
共催など		実施日	2000/10/28
概要・実施方法			
概要			
主に骨格標本を使用して、そこから知ることのできる脊椎動物達の体のしくみや進化を紹介。			
ねらい			
●理科 理科以外の 学校教育	●自然・環境 ●野生生物 動物愛護	●動物園・水族 館 情報	アート 文学 その他
実施場所			
施設内	動物科学館2Fホール		
施設外			
準備物			
動物の骨格標本、頭骨レプリカ(人間、アウスロロピテクス他)、サカナのパネル、ナメクジウオ標本、天秤ばかり			
実施しやすい 参加者数	理由		
20人	⇒ 標本を近くで見たり、手にとって見ていただきながら進めると、より効果的であり、行い易い。		
所要時間		実施者	
1日目	?時間	飼育係・獣医師	
2日目		教育担当係員	1人
3日目		ボランティア	
その他		イベント業者 その他	
周知方法		受付方法	
報道各社	友の会	● 事前	
●自園館広報誌	放送・掲示	当日	
母体広報誌	外掲示	実施回数	
その他		定期(年間回数)	
		● 非定期	
今後の展望など			
もっと充実させるために			
実施者数			
予算			
知恵・人材			
参加者年齢			
	幼保(年少) 幼保(年長)		
	小学(低学 小学(高学 中学 高校		
	● 大学 社会人 高齢者 年齢制限な		
参加者数			
	12人		
当日入園者数			
	1039人		
参加者区分			
	個人単位 家族単位		
	● 団体学校 団体一般		
取材			
	● なし テレビ ラジオ 新聞 その他		
参加者アンケート			
	● 無し 同封 未同封		
	企画・計画書		
	無し		

● その他 小型草食哺乳類や大型馬類など、レクチャーに使用する標本のさらなる充実が望まれる。

備考

⇒ヒアリング結果を参照する

● 同封

未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

### 進行表

時刻	場面	所要時間 (分)	詳細

資料編 5. アンケート結果サンプル 2

動物園・水族館で実施された実例プログラム集																					
プログラム名	動物解説(リレーガイド)																				
実施園館	川崎市夢見ヶ崎動物公園	プログラムNo.	Z303																		
共催など		実施日																			
概要・実施方法																					
<p>概要</p> <p>総合的な学習及び生活科の時間に学年単位で実施。飼育動物の諸々の解説を担当者が行なう。(1学年の生徒数を引きつれてのガイドツアーは、解説の行き届きに無理が生じるため、見学コースを6つに分けて、それぞれに職員がついて、6回の解説を行ない、同時進行する)</p>																					
<p>ねらい</p> <table border="1"> <tr> <td>理科</td> <td>自然・環境</td> <td>●動物園・水族館</td> <td>アート</td> </tr> <tr> <td>理科以外の学校教育</td> <td>●野生生物</td> <td>●動物愛護</td> <td>文学</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>情操</td> <td>その他</td> </tr> </table>				理科	自然・環境	●動物園・水族館	アート	理科以外の学校教育	●野生生物	●動物愛護	文学			情操	その他						
理科	自然・環境	●動物園・水族館	アート																		
理科以外の学校教育	●野生生物	●動物愛護	文学																		
		情操	その他																		
<p>実施場所</p> <p>施設内 ●</p> <p>施設外</p>																					
<p>準備物</p> <p>飼育展示動物</p> <table border="1"> <tr> <th>実施しやすい参加者数</th> <th>理由</th> </tr> <tr> <td>90人</td> <td>解説を聞きやすくするため15人ずつ6グループに分けている</td> </tr> </table>				実施しやすい参加者数	理由	90人	解説を聞きやすくするため15人ずつ6グループに分けている														
実施しやすい参加者数	理由																				
90人	解説を聞きやすくするため15人ずつ6グループに分けている																				
<p>所要時間</p> <table border="1"> <tr> <td>1日目</td> <td>1.5時間</td> </tr> <tr> <td>2日目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3日目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> </table>		1日目	1.5時間	2日目		3日目		その他		<p>実施者</p> <table border="1"> <tr> <td>飼育係・獣医師</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>教育担当係員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イベント業者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> </table>		飼育係・獣医師	7人	教育担当係員		ボランティア		イベント業者		その他	
1日目	1.5時間																				
2日目																					
3日目																					
その他																					
飼育係・獣医師	7人																				
教育担当係員																					
ボランティア																					
イベント業者																					
その他																					
<p>周知方法</p> <table border="1"> <tr> <td>報道各社</td> <td>友の会</td> </tr> <tr> <td>自園館広報誌</td> <td>放送・掲示</td> </tr> <tr> <td>母体広報誌</td> <td>外掲示</td> </tr> <tr> <td>●その他</td> <td></td> </tr> </table>		報道各社	友の会	自園館広報誌	放送・掲示	母体広報誌	外掲示	●その他		<p>受付方法</p> <table border="1"> <tr> <td>●事前</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●当日</td> <td></td> </tr> </table> <p>実施回数</p> <table border="1"> <tr> <td>●定期(年間回数)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●非定期</td> <td></td> </tr> </table>		●事前		●当日		●定期(年間回数)		●非定期			
報道各社	友の会																				
自園館広報誌	放送・掲示																				
母体広報誌	外掲示																				
●その他																					
●事前																					
●当日																					
●定期(年間回数)																					
●非定期																					
今後の展望など																					
<p>もっと充実させるために</p> <table border="1"> <tr> <td>実施者数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予算</td> <td></td> </tr> </table>				実施者数		予算															
実施者数																					
予算																					
		<p>参加者年齢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼保(年少)</li> <li>幼保(年長)</li> <li>●小学(低学)</li> <li>●小学(高学)</li> <li>●中学</li> <li>●高校</li> <li>●大学</li> <li>●社会人</li> <li>●高齢者</li> <li>●年齢制限なし</li> </ul>																			
		<p>参加者数</p> <p>⇒ 90人</p> <p>当日入園者数</p>																			
		<p>参加者区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人単位</li> <li>●家族単位</li> <li>●団体学校</li> <li>●団体一般</li> </ul>																			
		<p>取材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●なし</li> <li>●テレビ</li> <li>●ラジオ</li> <li>●新聞</li> <li>●その他</li> </ul>																			
		<p>参加者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●無し</li> <li>●同封</li> <li>●未同封</li> </ul> <p>企画・計画書</p>																			



知恵・人材  
その他

備考

⇒ヒアリング結果を参照する

無し  
● 同封

未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

### 進行表

時刻	場面	所要時間 (分)	詳細
10:30	集合、オリエンテーション		
10:40	ガイド開始		各スポット7～8分のガイドスポット
11:40	ガイド終了、質疑応答、まとめ		
12:00	終了		

資料編 5. アンケート結果サンプル 3

動物園・水族館で実施された実例プログラム集			
プログラム名	水族館を知ろう		
実施園館	千歳サケのふるさと館	プログラムNo.	A082
共催など		実施日	2000/1/7
概要・実施方法			
概要 水族館の裏側を見学し、オープン準備、餌やりなどを体験する(実施日は休館中)			
ねらい			
理科	自然・環境	●動物園・水族館	アート
理科以外の学校教育	野生生物 動物愛護	館 情操	文学 その他
実施場所			
施設内	全体		
施設外			
準備物			
軍手、掃除用道具、バケツ、カップ、テキスト			
実施しやすい参加者数		理由	
20人	作業の出来る範囲		
所要時間		実施者	
1日目	2.5時間	飼育係・獣医師 3人	
2日目		教育担当係員	
3日目		ボランティア	
その他		イベント業者 その他	
周知方法		受付方法	
●報道各社 友の会 ●自園館広報誌 ●放送・掲示 ●母体広報誌 ●外掲示 その他		●事前 ●当日	
		実施回数	
		1回 定期(年間回数) 非定期	
参加者年齢			
幼保(年少) 幼保(年長)			
●小学(低学) 小学(高学) 中学 高校 大学 社会人 高齢者 年齢制限なし			
参加者数			
⇒ 24人			
当日入園者数			
0人			
参加者区分			
●個人単位 家族単位 団体学校 団体一般			
取材			
なし テレビ ラジオ ●新聞 その他			
参加者アンケート			
●無し 同封 未同封			
企画・計画書			
今後の展望など			
もっと充実させるために			
実施者数			
予算			

知恵・人材  
その他

備考

⇒ヒアリング結果を参照する ⇒写真を見る

無し  
● 同封  
未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

### 進行表

時刻	場面	所要時間(分)	詳細
	講義	30	水族館の仕事やろ過の仕組みについて説明
	館内の見学	30	事務所から入り、濾過槽、機械室、2Fバックヤードなど、館の裏側を見学
	休憩	10	
	体験	50	参加者を3グループに分け、仕事を体験する。①渓流水槽掃除②ミニ水槽掃除③ろ過逆洗
	餌やり体験	30	大水槽の餌やりを体験
	終了		

資料編 5. アンケート結果サンプル 4

プログラム名	<b>イレブンオリエンテーリング</b>	
実施園館	東京都葛西臨海水族園	プログラムNo. A232
共催など		実施日 2000/10/8

**概要・実施方法**

概要	
園内をまわりながら、11ヶ所のチェックポイントでクイズに回答してもらう。クイズは主に水槽の生物の観察をすれば判るもので、全問回答した人に点数に関係無く絵はがきを授与する。	
ねらい	
理科	自然・環境 ●動物園・水族館 理科以外の ●野生生物 館 学校教育 動物愛護 情操 その他
アート	文学
実施場所	
施設内	ガラスドーム(出入口付近)
施設外	
準備物	
問題はシールに印刷し、水槽等にはり出す。絵はがき(オリジナル)	
実施しやすい参加者数	理由
無制限人	
所要時間	実施者
1日目 7.5時間	飼育係・獣医師
2日目	教育担当係員 1人
3日目	ボランティア
その他	イベント業者 その他 7~8
周知方法	受付方法
報道各社 友の会 自園館広報誌 放送・掲示 母体広報誌 外掲示 その他	事前 ● 当日 実施回数 4回 定期(年間回数) 非定期



参加者年齢	
	幼保(年少) 幼保(年長)
	小学(低学) 小学(高学) 中学 高校 大学 社会人 高齢者 ● 年齢制限なし
参加者数	1608人
当日入園者数	11342人

参加者区分	
	● 個人単位 ● 家族単位 団体学校 団体一般
取材	
	● なし テレビ ラジオ 新聞 その他

**今後の展望など**

もっと充実させるために	
実施者数	
予算	

参加者アンケート	
	● 無し 同封 未同封
	企画・計画書

知恵・人材  
その他

備考

⇒ヒアリング結果を参照する

● 無し  
同封  
未同封

※企画・計画書の入手は各園館にお尋ねください。

### 進行表

時刻	場面	所要時間(分)	詳細
	事前準備		問題の検討、問題用紙(チェックポイント)を園内に掲示、解答用紙、鉛筆等準備
	会場設営 本番	30 450	採点机、ポスター掲示など 開園中終日開催。主に採点、問題解説、絵はがき授与を1~2名で行う
	片付け		

## 資料編 6. 調査研究委員会議事録

### 第 1 回 調査研究委員会議事録

日時: 12 月 1 日(金) 午後 1 時 30 分～5 時

場所: 上野動物園会議室

#### 議事

はじめ 会長挨拶

自己紹介 参加者 外部委員 正田陽一、水野憲一、鳩貝太郎、染川香澄、小林毅

日動水 池田会長、堀総務担当理事、高松総務部長

推進委員 石田、山本、市川、大丸、白井、松田

#### 1. 経過の概要説明

文部省の「生涯学習活動の促進に関する研究開発」事業の一環として、研究開発費の申請を受理された。

日動水は「教育活動推進委員会」を組織して、この研究開発の受け皿とするとともに将来の教育普及部の基礎とする。

「本研究開発」活動を通じて実施すること。

- 1) 各園館の実施している教育事業の実態を把握し、評価し、他の園館が使用できるようにする。
- 2) そのうち 13 - 14 園館を選び、詳細なヒアリングを通じて、教育活動の内容把握と技術移転に役立てる。
- 3) 動物園、水族館の教育事業のあり方を検討し、各園館の方針づくりに役立てる。

推進委員会の今後の活動

#### 2. 全国アンケートの実施

石田 今年度については、時間的な制約もあり、各園館がもっている教育プログラムを掘り起こして、全園館がプログラムを共有できるようにしたい。

今回のアンケートには、二つのねらいがあります。一つは、教育プログラムの実態をつかむこと。もう一つは、各園館が実施しているプログラムを自己評価する意識を持ってもらうこと。教育にしる、行事にしる、キチンと評価することはあまり行われていなかった。

山本 アンケートでプログラムを拾い上げることを追求するが、中にはプログラムとして未熟なものもあるだろう。それはそれで、従来、動物園や水族館が教育といていたことの実態があきらかになる。それを、委員の皆さんに提示し、それぞれの専門の立場からご批判いただき、われわれの教育プログラムの質を高めることもしていきたい。

### ○アンケートの実施について

染川 ヒアリングの注記が主観的に思われる。引率の教師、利用者、園館の3者の意見を集約する形にならないか。

小林 狙いや達成目標を明確にしておけば、実施者に対して批判的なことばかりでなく、良いところをのばすような指摘もできる。

染川 評価の数値化はだれの意見が反映されているのか。

石田 今回の調査では、ヒアリングの注記を利用者側（教員、親、子ども）から聞くことは物理的に不可能であった。また、評価の数値化は、参加した調査員が全員で討論して行った。

### 3. 教育プログラムについての意見

#### ○教育プログラムに狙いをもたせる

小林 利用者が、どのような形で訪れるにしても、何を教えるか、誰がどう教えるか、を明確にしておくことが、大切。狙いが曖昧では効果も現れにくい。私は、自然観察や自然体験をやっているが、学校からは1時間で何かやって欲しい、という要望が多い。非常に短い設定時間の中では、次の機会には、半日・一日のプログラムを体験してもらおうという期待を込めてやっている。

自然観察はいわば行為にすぎないのであって、観察を通じて何を教えるのかによって、プログラムは異なってくる。

水野 小林さんの言うように何を教えるのかなど、狙いを持つことが重要。

染川 よく言われるのに、「思いでづくり」というのがあるが、これは発想が逆で、思いでのために体験するのではなく、ちゃんとした経験が思い出になっていくのだ。今、しきりに言われる体験教育も、ただ体験すればよいのではなく、個人個人の体験が経験として身に付くように体験の質を向上させることが、必要である。

アンケートでは、プログラムの狙いを類型化しているが、文章として記述することも重要。

ヨーロッパの博物館では、体験教育や解説をする際に、博物館が研究活動をしていることをなんども繰り返して説明している。動物園や水族館の姿勢をきちんと伝えることも重要です。

会長 教育プログラムが終わったときに楽しかったという印象を持たせる工夫も必要。

鳩貝 興味が深まって、知的レベルがどんどん上がる仕掛けが必要で、教師も動物園・水族館を学びの場として意識する試みをする。

小林 学校へ出かけて行って、教師対象の研修を実施する方法もある。またハンズオンといわれるが、マインズオン、つまり心が動いて行く、手先だけではないプログラムが求められる。プロジェクトワイルドなども使い方によっては、知識教育にしかない。

#### ○プログラムにおける教師の役割

- 会長 教師が、遠足の下見に来るが、先生だけで回っている。
- 石田 葛西では下見ガイドというのをやった。特異的に下見の多い9月1日に 校が来園して 校の先生が、解説員のガイドを受けた。  
動物園や水族館を教育的に利用するきっかけになると思う。
- 白井 下見では、動物のふれあいができる場所、産卵がみられる水槽、イルカのショーの時間など具体的にコースを説明する。リピーター誘致として成功している。そのほかにも館側からメニューを提供している。民間と公共では学校誘致に温度差があるのでは。
- 松田 教師の方が、飼育係より話術はうまいと思う。しかし水族などの専門知識は少ないので、飼育との役割分担が必要だと思う。
- 白井 子供達の疑問に答えるためには専門知識は必要で、飼育係に任せた方がいい。
- 高松 上野では、ヘビのタッチを実施しているが、これをした上で、は虫類の展示を見ると、目が輝いている。タッチなどの時には、先生はまとめ役として重要だ。
- 堀 こどもは先生がいない時の方が、良い意味での解放感があり、積極的に質問が飛び出す。
- 石田 親も子供も全て巻き込んでやっているが、特に支障があるとは思えないが。
- 染川 プログラム次第であるが、学校の中での生徒同士や教師との人間関係を、一度バラバラにした方が良い場合もある。
- 山本 富山では、こどもだけにすることも、先生が付き添う場合もある。ヘビの嫌いな先生が触れるようになる過程を見て、子供達もヘビに触ってみるといふ事例もある。
- 小林 ラベルや解説板など、ノンパーソナルな媒体で、多くの人に情報を提供するには優れている。実施者がいる対人的な解説では、インタープリテーションの能力が求められる。

#### ○動物園・水族館での生命教育

- 染川 動物園・水族館では、マーケットリサーチがされていないのではないかと。
- 山本 今までは、行われていない。動物園や水族館は従来から安定した人気施設であり、マーケットリサーチの必要を感じてこなかったのだろう。
- 水野 飼育係が教育活動をやると聞いてびっくりした。動物園や水族館では、動物の存在だけで、情操の教育ができているようにも感じられる。野生動物への正しい態度を教えることが大切だと思う。動物への食事なども見られるようにしたらどうだろう。
- 石田 日本の動物園で餌の時間を公開しているところは少ない。
- 会長 外国では、生き餌を食べるところを見せている例もある。
- 大丸 学校飼育動物も、愛玩動物だけを対象にするのではなく、食べる動物、家畜などを飼育するとよい。
- 鳩貝 そう考えるが、現在では反発が大きい。
- 山本 動物の生死の問題も、動物園が伝えるべき大きな課題である。



堀 飼育係に、教育的役割を担わせようとする、反発がある場合がある。  
石田 教育プログラムを収集したり、開発していくのだが、その際に、一人でもできるプログラムを提供してみたい。例えば、一人の職員が、あるいは園長が、発案すればそれでやれる状況をつくり、その中でまわりの人の意識も変わるかも知れない。

#### ○出前授業

水野 学校対象のプログラムを色々と考えているだろうが、学校へ出かけていくのではないのか。最近、ゲストティーチャーの重要性が言われている。

石田 既に、実施しているところも多い。多摩動物公園では、年間 40 回になると聞いている。現在の組織では限界に達しているようだ。葛西でも 10 回くらいはある。ただ、プログラムなどを決めて誘致しているところは少ないだろう。

堀 インターネットなども活用して、アウトティーチや出前授業など連携させて、多様なプログラムを作って欲しい。

#### 4. その他の問題

##### ○学校飼育動物問題と動物園

会長 学校での飼育動物を、夏休み期間動物園で預かってもらいたいとの意見が、教員からきているが、生き物に対する感覚がずれているように感じられる。生き物に対する正しい感じ方を育成していくのも、動物園教育のひとつであろう。

鳩貝 小学校 1, 2 年では、社会科と理科を合わせた形で生活科がはじまっており、当初は、各学校で工夫して、授業を行うようになっていた。ところが具体的な指針が欲しいという要望がでて、教科書を作成した。その中にウサギの飼育を勧める内容のものがあ、多くの小学校でウサギを飼育する結果となった。だが、教師自身がウサギのことを知らないのに、虐待に近いような飼育をするケースが多くなっている。群馬県のように、獣医師会が、学校獣医制度を設けて、県をあげて対応している。また大阪のように、学校飼育動物をレンタルする会社が現れるなど、動物飼育の意味が失われるようなケースも出てきている。

堀 動物園教育は、生涯教育の一つとして、全世代を対象とできるが、当面学校を対象をしぼることも考えられる。

##### ○職場体験

鳩貝 最近の教育現場では、体験が非常に重視されるようになってきている。しかし、家庭で失われた体験の場を、学校教育の中させればよい、とするように思える。本質的に家で解決しなければならないこともあるように思う。中学校では、1 週間、通常の授業をしないで、職場体験させる事例もある。

カリキュラムとしては職業調べがあり、それは多くの学校が採用している。

大丸 確かに、職場体験の申し込みは多く、対応に苦慮している。本来の動物園教育とは異なるものである。中には、単に他の子についてくるだけの生徒もいる。

山本 富山では、動物園側で積極的に学校を受け入れており、その結果、比較的熱心な子供たちが参加している。職場体験のようなものもあるが、いわゆる動物学が自然観察をテーマにしている。

白井 飼育体験については、学校の希望に関わらず、早朝から飼育の仕事に合わせておこなうのを条件にしているが、年間6件ほどある。

鳩貝 教員のなかには、預ければよいと考えている教師もいる。

#### ○日動水としての取り扱い

堀 日動水の中で、教育に関する検討を、どこの部門で実施するか考えなければならぬ。各技術研究会で、教育の話題を2つでも3つでもとりあげて行くようにしたらどうか。

会長 教育の重要性については、各園館でトップの意識に差があり、全体として積極的な方向が生まれていない。

## 第2回 調査研究委員会議事録

平成13年3月13日(火)14時～17時

場所:上野動物園会議室

出席者	正田陽一	(財団法人東京動物園協会副会長)
	鳩貝太郎	(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
	水野憲一	(NHK エンタープライズ 21)
	染川香澄	(Hands On Planning)
	小林 毅	(自然教育センター)
	石田おさむ	(葛西水族園園長)議事進行
	山本茂行	(富山ファミリーパーク公社飼育課長)
	高松 巖	(上野動物園副園長)
	市川典良	(よこはま動物園飼育係長)書記

高松 挨拶・本日はお忙しいなかご出席いただきありがとうございます。上野動物園では平成14年度より総合的学習対応をスタートする予定をしています。本日は宜しく願いいたします。

石田 資料説明

《アンケート用紙について》

動物園・水族館教育プログラム共有化に関するアンケート(例:マグロの解剖と解説)用紙はプログラム名・実施日・概要等を項目ごとに記入してもらうようにしました。

《アンケート回収状況について》

同アンケート回収率は73%で非常に高い率で、動物園と水族館を比べてもほぼ同程度です。

非解答園館からの意見としては教育プログラムを標準化することに疑問視する意見などもありました。

《カテゴリー別サーチについて》

カテゴリー別サーチについては(資料を参照)飼育体験・ガイド等9種に分類しました。

《プログラムの傾向について》

プログラムの傾向としては事前申込型が2/3程度でした。

《参加区分について》

参加者区分は個人単位・団体学校の順です。

《所要時間分布について》

所要時間は1時間未満が多く、20時間以上のプログラムもあり2~3日間で宿泊して行うものもありました。

鳩貝 所要時間の計り方もいろいろですか？

石田 そのとおりで、各園によって多少のばらつきがあるようです。

《実施者合計分布について》

実施者合計分布については、カウント方法は各園で異なるのではないのでしょうか。

《参加者数分布について》

参加者数分布は10人～500人まであり、50人未満が一番多く500人を越えるプログラムはほとんどがオリエンテーリングやクイズ形式のものです。

《理想最多参加者数について》

理想最多参加者数50人ぐらいにピークがあり次に20人程度となっています。

《参加者年齢区分について》

参加者年齢区分は小学生高学年がもっとも多く、幼保が意外に少なく、上野動物園の入園者は3歳児が最多です。

鳩貝 幼児教育は非常に大切なことなので、各園館の更なる努力が必要ですね。

石田 そのとおりだと思います。

《プログラムの目的と現状について》

石田 ねらいは動物園・水族館の理解、自然環境が多く、最近は野生生物に関するものが増加しているようです。

高松 理科、学校教育が少ないのは、各園で提供できる材料が少ないということで、更に勉強が必要ではないのでしょうか。

水野 各カテゴリーの正確な理解も非常に難しく、マグロは水産庁に言わせると野生生物ではなく資源という取扱いなんですよ？

《期待できる効果について》

石田 期待できる効果については、例えば集客効果でみるとは事前申込形式が多いことがわかります。また、経費効果でみるとグラフの5の範囲が安いということになります。

《実施者について》

実施者については、専任の教育担当者がいるのは30園館ぐらいで、ほとんどは飼育係・獣医が行っているという結果がでました。

小林 普及担当者の育成・ボランティアの育成教育が必要ですね。

石田 そのとおりです。このプロジェクトの将来的な役割なるのではないのでしょうか。東京ズーボランティアズは4時間/日・20日間(8割出席条件)研修を行っていて、非常に厳しい条件です。

小林 研修者は若年層は将来プロになる比率が高くて、高齢者は楽しみが目的の方が多いようですね。

正田 阪神大震災以降ボランティアも変化しました。

高松 ボランティアを介しての入園者(リピーター)の獲得も大切なことだと思います。

石田 モントレー方式のようにボランティアのランク付けなども考えても良いのではないですか。

水野 動物園・水族館の存在自体が教育であって、セルフガイドも大切になってきますよね。

石田 水族館は可能だと思いますが、動物園は難しい面がありますね。

高松 動物園のサインで「今…を見てほしい」式解説の工夫がほしいですね。

- 染川 サインの内容で単に知識だけでなく、考え方を揺さぶられるような工夫もがほしいと思います。
- 正田 上野動物園のラマ・バク・カピバラの展示場のサインは工夫が必要だと思います。
- 水野 スポットインタープリテーションとって、実物と映像で、イギリスのプリストルにエレクトロニクス・バーチャル ZOO がオープンして、今後は、日本の園館でも展開していったらどうでしょうか。
- 高松 上野動物園でもズー・サイエンスホール建設を予定しています。
- 石田 ディズニーでは獣医の手術の様子まで見せていますよね。  
《平成 13 年度の委員会方針について》
- 石田 この委員会の来年度の方針については次のように予定を立ててみました。
- 1 新プログラムの開発
  - 2 総合的な学習に対応するプログラム
  - 3 外国のプログラムの調査
- 特に不足しているプログラムとして幼児向け・生活科・教員全般・集客効果重点・ボランティア、職員トレーニング用プログラムなどがあります。
- 鳩貝 今後のプログラム開発には学校関係者もメンバーに入れることも必要ではないでしょうか。
- 総合的な学習については、学校現場でも動きはあるが、それぞれの地域や、他の組織も入れて進めて行くべきだと考えます。
- 石田 葛西水族園では、最近学校からの視察が増え、15 件 / 年ほどあります。
- 鳩貝 各園館と学校間の歩み寄りが必要なんですね。  
学校現場では、その評価が非常に難しいので混乱が見られているようです。
- 小林 最近、米国ではティーチャーズガイドが人気で、プログラム作りから過度のマニュアル化反対、応用型 How to 式に傾く傾向があるようです。
- 鳩貝 最近では、動物園に行くのに、学校との間にエージェン트가介在しているんですね。
- 染川 プログラム開発に際して、動物園・水族館と博物館の違いを明確にしてから、開発していった方がより良いものができるのではないのでしょうか。
- 石田 今後の理念作りに zoo-support.net の加藤氏を加えてはどうでしょうか。  
集客に結びつくようなプログラム開発、社会的効果も望めるのでは・・・。
- 高松 まず、マーケティング調査をして、ニーズを掴むことが先だと思います。  
上野動物園では、52%が無料客で、各園館でのバランスシート作りや自己評価・外部評価などを進めるべきではないのでしょうか。
- 水野 理念・使命とはどういうことなのでしょう？
- 石田 難しい問題ですね。
- 山本 公立校と私立校をわけて考えることも必要だと思います。
- 石田 今日伺った内容を参考にして、来年度も活動していきたいと考えておりますが、いかがでしょうか？
- 全員 了承
- 石田 3 月 25 日上野動物園で推進委員会を開催する予定です。
- 高松 皆さん、今日はお忙しい中ありがとうございました。これにて終了いたします。